

庄内



第21号

庄内の昔を語る会



表紙写真説明

史跡稚児ざくら（写真は福村修様提供）

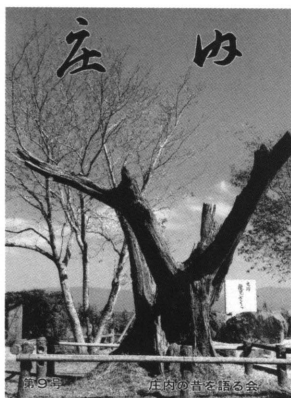
慶長四年（一五九九年）、一時都城領主であった伊集院忠真と鹿兒島宗家島津忠恒との間に内紛「庄内の乱」が起り、寄せ手の島津軍とこれを迎え撃つ伊集院軍とがこの辺りで大激戦をくり広げました。この戦いで、島津軍の弱冠十六歳の若武者富山次十郎は奮戦むなしく敵刃に倒れ、その亡きがらは敵味方から惜しまれながらこの地に葬られました。

当時、この美少年の供養のために植えられたという桜の木は、その後数百年爛漫と咲き匂い、誰言うともなく稚児ざくらとして往時を偲ばせておりました。

しかし、昭和四十八年老衰のため枯死し、さらに平成になり火災に遭ったため、その跡地に都城市や庄内の昔を語る会の協力により、あとつぎの桜が植えられました。

ところが、残念なことにこの桜も最近枯れてしまい、今では囲いだけがむなしく残っています。

今号の表紙写真の桜は『庄内』九号の表紙の写真の後方に写っています。誰が植えたものか不明ですが、今ではこんなに大きくなり立派な花を咲かせています。



刊行にあたって

庄内の昔を語る会 会長 山下 謙二郎

年度末になってやっと『庄内』二十一号を発刊する運びとなりました。『庄内』の発行を心待ちされている方々に、特に貴重な原稿を早くから寄稿いただいた方に、発行が遅れてしまったことを深くお詫びいたします。

「庄内の昔を語る会」は、「まちづくり協議会」の「教育文化活動部会」の中で活動を続けています。その中で、地域の四つの学校（庄内小学校・菓子野小学校・乙房小学校・庄内中学校）の児童・生徒たちへの史跡学習会を行っています。また、夏休みには、それぞれの学校の先生たちが史跡巡りに参加してくださいました。これらの活動の中で、地域の歴史・文化に対する理解が深まり、地域の素晴らしさを感じ取ってもらいました。その事は、今回発行の『庄内』二十一号の子どもたちの作文の中に書いてあります。子どもの中から自分たちの地域の中に目を向け、地域の歴史や文化を知ることは貴重な体験になるものと思っています。

今ままであまり知られていなかった「行乞の俳人・種田山頭火」が庄内にも足を運び、俳句を詠み、旅日記にも庄内でのことが書かれています。その貴重な事蹟が歴史研究の中に掲載されています。また、昨年が「戦後七〇年」ということでその頃の体験を書いて頂きました。多くの方々に読んでいただきたいと思えます。これから先、いつまでも「戦後」が続いていきますように。

何とぞこれからお見限りなく、地域の方々、読者の皆様のご協力をお願い申し上げます。

平成二十八年三月吉日

目次

刊行にあたって 会長 山下謙二郎

歴史研究

俳人・山頭火・庄内町編 抜粋 町区 梶原孝美 1

庄内町に山頭火が来ていたんですよ 町区 梶原孝美 4

戦時中の思い出

私の軍隊生活 東区 坂元徳郎 6

ぼけ老人のひとりごと 町区 矢野次男 14

庄内町情報

都城市・庄内町合併五十周年記念祝賀会 庄内地区まちづくり協議会 17

庄内小学校だより 校長 逆瀬川秀夫 29

乙房小学校だより 校長 古川久美子 34

菓子野小学校だより 校長 後藤薫 39

庄内小学校五年生遠足感想文 42

庄内中学校一年生地域巡見感想文 52

庄内地区まちづくり協議会平成二十六年事業報告 64

釘村 美千也

追憶・随想

川野光先生の思い出 70

早鈴町 七牟礼 純一

熊襲、南洲神社、そして庄内川 73

上川崎出身 花原 憲一郎

事務局だより

平成二十六年 事業報告 75

平成二十七年 会員名簿 82

編集後記 83

表紙題字 (故) 大河内 浩爾

歴史研究

俳人・山頭火・庄内町編 抜粋

町区 梶原孝美

(一) あかつきの 高千穂は雲かげもなく 山頭火

「庄内から眺める高千穂の峰は まるで鳳凰が羽を広げたよ
うな美しさだ あかつきには 一層くつきりとその雄姿を見せ
てくれる。」

(『日向路の山頭火』著者 山口 保明氏)

庄内川付近から 眺める霧島は 心のふるさとはです。

◆山頭火日記 行乞記の原文

「けさはぞんぶんに水を飲んだ。庄内町の自動車乗場の押揚
ポンプの水はよかった。」

口づけてのむ山の水には及ばないけれど。ここへ来るまでの
道で、逢った学校子供はみんなはだしだった。うれしかった、
ありがたかった。」

時代考証

昭和五年当時のバス停は、会誌『庄内』に記載あります。

【証言】 自動車乗場、押揚ポンプは、小学校下の交差点、旧本
商店跡地に有りました(現在さら地)。戦後、本商店は水がお
いしかったから、夏アイスキャンデーがよく売れ、祭りなどで
は人だかりができました。

(益田 京子氏)

【証言】 父が庄内で昭和二年に乗合バスの定期運行を始め、乗
合馬車から箱バス(木製)に変わり、昭和五年には乗合バスが
本格化しました。当時の写真があります。

(重久 正子氏)

【証言】 庄内尋常高等小学校三年生まで、着物にはだしで 冬
は下駄を履いて学校に行きました。

(昭和五年 当時一年生 霜出 徳二氏)

(二) お信心の お茶のあつさを よばれる 山頭火

昭和初期の庄内の人々の人柄や信心が偲ばれ、それが脈々と今につながる。

◆山頭火日記 行乞記の原文

「旅のエピソードの一つとして、庄内町に於ける小さい娘の児のことを書き添えておこう。

彼女はそこのブルの秘蔵娘らしかった。まだ学令には達していないらしいけれど、愛嬌のある茶目子だった。私が家の前に立つと、奥へとんでいって、一銭持ってきてくれた。そして私に先立って歩いて家々のおくさんを探し出しては、一銭を貰ってきてくれた。付添いの女中も何ともすることが出来ない、私にはありがたいやら、おかしいやらで微笑しつつ行乞をつづけた。

草鞋の時代錯覚的価値―草鞋を探し求めるときにはいつも、こんなことを考える けふも同様だった。」

時代考証

山頭火はこの庄内の幼子と逢った二十二日の出来事を、宮崎の杉田作郎ら層雲句会の俳人たち（県立図書館の杉田文庫）と遅くまで飲んだ後に、正確には四日後の二十六日の朝に、思い

出したように日記に書いています。余程、庄内のこの幼子のことが強烈に焼きついていたのでしょうか。

【証言】 明治二年に地頭 三島通庸が庄内町づくりをした時に、移住者が多く押し寄せ、現在の東区を新しく開拓して近辺の農家の次男、三男坊に。町区に商人、石工、大工らに住まいを与え、西区は元々、安永城下址として現在の形が出来たわけですが、山頭火が出会った幼子は、今の町区（三島通り）の子供ではないでしょうか。

（庄内の昔を語る会 元会長 坂元 徳郎氏）

【証言】 三島通りには地頭の呼びかけに応じ、前田町付近の商人の次男、三男坊が来たけれども、通庸公は青年の教育に力を入れ、夜間に勉学の機会を与えました。

また、かんとう 汾揚・わたやう 済陽・江夏など商人は古く、鉄砲伝来の室町時代、中国明からの移民で、内之浦から都城へ入ってきました。

（南崎 洋史氏）

そのほか、重久政雄氏、有馬達夫氏、黒木義子氏、汾揚綾子氏、有馬栄子氏、伊地知瑞穂氏から聞き取り調査をしました。その結果、山頭火が出会った幼子は室屋英子さんであることが判明しました。

室屋英子さんは昭和五年当時五才。旧姓汾揚。昭和五十六年

に亡くなる。存命であれば今年九十歳。ご主人は、故・室屋勝一氏。「庄内の昔を語る会」に投稿記事があります。勝一氏は終戦直後、庄内小学校で教師をされました。

英子さんも 戦後小学校教師をされ、結婚後は東京で男の子二人を育てられ、永年幼稚園の主任としてお働きになり、アメリカにも滞在されたとお聞きしました。

昭和五十六年に亡くなる時に、辞世の句を詠まれています。

「お腹のマグマなぜ騒ぐ 医学の力に 光明あれ」

後日、何人かの人に山頭火のことをお話しましたら、辞世の句を詠まれたことは、何か俳人山頭火と一期一会になる運命的な出会いが、昭和五年九月二十二日に有ったのかと、頷くことしきりでした。

(三) 竹藪の奥にて 牛が啼いているよ 山頭火

「年あたかも昭和五年。いわゆる経済大不況の時期で、ことに農村の困窮は著しかったから、そうした風景が行乞をつづける山頭火の目につくのだ。」

(俳人 金子 兜太氏)

◆調査してわかったこと

『日向路の山頭火』鉾脈社に記載の版画制作者、故片ノ坂登先生の夫人片ノ坂クニ氏の証言によると、

【証言】 主人の十三回忌も終わったところでした。主人は、生前、山頭火の版画を制作する資料を集めるため、山頭火の研究者や個展を訪ねていました。

「宮崎牛のフルコース」の著者黒木法晴氏つねはら。日本一の種牛「隆美号」育成。口蹄疫の第一人者の奥様「義子氏」が徳永岩男氏の長女（大正十五年生まれ）で宮崎市に健在でお話を伺うことができましたが、山頭火の話より口蹄疫で苦勞された農家の話をお聞きしたことが、一番印象に残っています。

庄内町に山頭火が来ていたんですよ

町区 梶原孝美

分け入つても分け入つても青い山

中学校の教科書にも載っている種田山頭火のこの句は一九二五年大正十四年四月、熊本から宮崎の県境を越えて高千穂へ乞食の旅した時に生まれたそうです。

乞食こじきとは、修行僧が家々の戸口に立って読経し、鉢の中へ金銭や食べ物モノの布施を受けて、小欲知足の生活をしつつ、修行することです。六年後の昭和五年、熊本を出発しました。

山頭火は九月二十二日、高崎新田から谷頭を経て庄内町まで歩いて訪れています。庄内町で三時間行乞し、暮れて市内の江夏屋という宿へ着いたこと、この日は六里歩いて五時間行乞したと記し、当時の庄内町でのエピソードを俳句とともに、彼の行乞記の中に残しています。庄内町にも山頭火は来ていたんです。

二〇一三年九月に都城高専、藤永伸教授の社会人講座「山頭

火と霧島盆地」を受講した仲間と、約八十五年前の山頭火が歩いた都城での足跡を訪ねることを始めました。そして宿泊した江夏屋跡やお寺や教会を突き止め、今年三月に「都城に山頭火の句碑を建立する会」を八人で立ち上げ、広く募金活動をして九月に山頭火がお彼岸に訪れた前田町の願蔵寺に句碑を建立しました。

山頭火は生涯、全身全霊をその俳句作りに費やしたためにその反動が大きく、後世の意見は分かるところですが、自由な心境を詠んだ俳句は人々の心を打ち、句碑建立は全国に一〇〇〇を超える勢いです。

山頭火の庄内町でのエピソードや、俳句の足跡を訪ねる旅は別紙に抜粋したいと思いますが、昭和五年九月二十二日の「一期一会」を調べることは、とても楽しいことでした。何しろ、今から八十五年位前のことですから、雲を攫むような話です。

先ず先人に学べと、郷土史誌である「庄内の昔を語る会」を読みかえました。そして「語る会」元会長、坂元徳郎氏、南崎洋史氏、汾陽綾子氏、故片ノ坂 登氏の奥様クニ氏、重久政雄氏ほか九十二歳から八十歳まで十二人聞き取りしました。調べうるうちに庄内町の人脈の大きさ、広さにただただ驚きいりました。快く面会下され、ご協力、資料提供、ありがとうござい

ました。現在も庄内における山頭火は調査中です。新しい事実をご存知でしたらお知らせください。

何故、今、山頭火か、今もなお惹かれるかと考えます時に、現代で問われていることは、平均寿命より健康寿命を伸ばすこと、すなわち「P.P.K.ぴんぴんころり」です。「運動（ウォーキング）して生涯現役、健やかに老いる」です。山頭火は病で寝込むことなく、コロリ往生したとのこと。「あの世でも歩くか」と詠まれたほど健脚でした。えびのの加久藤峠も歩いて越えたと記しています。

私は四月に訪れた四国遍路の旅で、山頭火の句碑が多く人々を励ましているのを見ましたし、九月には山頭火が庄内町と同時期に訪れた熊本、日奈久温泉で山頭火フォーラムが実施され、全国から多くの山頭火ファンが集まりました。

自由に心境を詠んだ俳句は、人々の心を打ち続け、将来、二十年先、三十年先に庄内町で山頭火 文学フォーラムが実施されることを夢見ています。庄内町はそれにふさわしい文化の町です。

願藏寺（都城市前田町）に建立した句碑
投げ与えられた一銭のひかりだ

山頭火



戦時中の思い出

私の軍隊生活

東 区 坂 元 徳 郎

一、予科練合格

昭和十九年、私達都城中学校三年生は、いわゆる「学徒勤労動員令」により都城の祝吉町に在った川崎航空機製作所に動員されていた。私は戦闘機の胴体を造る部署で鋸打ち作業に携わっていた。この飛行機は確か「飛燕」と言った。

或る日、担任の阿部先生が我ら三年生を集めて何やら話をされた後、数人の者に「予科練」に行く事を勧められた。飛行機乗りは子供の頃から私の憧れでもあったし、また私は海軍兵学校や陸軍士官学校に合格する成績レベルでもなかったため、先生の勧めに一も二もなく応じた。戦局が逼迫した終戦間際の予科練は、体格さえ普通であれば学業成績はそれほど問題視され

なかったようだ。

※私が志願した「予科練」とは、「海軍甲種飛行予科練習生」略称「甲飛」の事で、昭和十二年、海軍の航空機搭乗員の下士官養成を目的として発足した制度である。発足当時の受験資格は、旧制中学校四学年一学期修了以上の者であったが、昭和十八年から三学年修了の者と引き下げられ、履修期間も当初は二年十一月であったものが、其の後太平洋戦争勃発後は徐々に短くなり約二年から一年半、そして終戦直前には六ヶ月に短縮された。制度的には履修期間修了後、練習航空隊で飛行訓練を受け、その後実戦部隊に配属される事になっていたが、昭和十九年から訓練する練習機が無く「人間魚雷回天」「水上特攻艇震洋」「人間機雷伏竜」等、航空機以外の特攻兵器の部署に回された者が多かった。なお私を含め終戦間際に入隊した殆どの者達は、予科練自体の教育も滞り、航空基地の掩壕建設や防空壕掘り等に従事させられ、自嘲的に「土科練」とも言っていた。（予科練には「甲飛」の外に、高等科二年修了から志願する「乙種飛行予科練習生」と一般兵から選抜されて入隊する「丙種飛行予科練習生」があった）

因みに、庄内町から「甲飛」に合格入隊された五年先輩の西区の椋田陸郎さん、四年先輩の平田区の平田光春さんがおられ

た。お二人とも戦死された。御冥福を祈る。

二、兵隊ユ工（祝い）

軍隊の学校に入学する時は、普通の出征兵士を送る時と同じような祝宴をして送り出す習わしがあった。食糧欠乏の時ではあったが自家の鶏を潰して、煮しめ、酢の物、吸い物、そして焼酎を酌み交わしてテコシャンセンで賑やかに送り出すのが定番であった。子供を軍隊の学校に送り出す事は家の誉れであり、誇りでもあったのである。

祝宴に先立って、私を真ん中にして父と母が両脇に立った。父が何か挨拶をした。それから私である。多分父が作ってくれたものを暗唱したのに違いないが、最後に「お国の為に一生懸命尽して参ります」と言ったのを思い出す。そして誰かの音頭で「坂元徳郎君万歳」、私達親子は神妙に頭を垂れた。それは敗戦も真近かに迫った昭和二十年三月二十七日の午後であった。

翌二十八日は谷頭駅を朝八時三十分発の列車で福岡に向かった。時正に満十五歳の春、昨年は長男を、引き続き今年も次男を軍隊に送る出す両親の本当の気持ちは遂に聞きそびれた。

三、予科練入隊

入隊した所は福岡県糸島郡周船寺町の福岡海軍航空隊。都城中学校から一緒に入隊した者の中に西嶽の伊地知君、三股の中園君、志和池の山路君、横市の蓑原君が居た。そしてこの五人は第十九分隊第四班に編入された。

一分隊は四班から成り、一班は三十名弱だったと記憶する。兵舎一棟に一分隊が生活する。下着から訓練服（第？種軍装）、そして憧れの七つボタン（第一種軍）が支給された。サイズは大中小、私は大であった。そして着て来た私服は総て家に送り返した。これで逃げも隠れも出来ない軍隊と言う大きな組織の中の一軍人、即ち憧れの第十六期甲種飛行予科練習生になった。少し遅れて山口の航空隊に入隊した者達も居たが、日本最後の予科練だったと思う。

私達の分隊士は学徒出身士官の西村と言う若い少尉さんであった。班長は中村と言う乙飛出身の兵長さん、第一班の班長さんは色グロの体の小さな海軍上等兵曹、見るからに精悍な叩き上げの下士官である。駆逐艦に乗っていたと聞いた。私達第十九分隊は終戦の時までこの兵曹の先導で日本海軍精神を叩きこまれる事になったのである。

入隊して二、三日してから入隊の式典が行われた。整列した

人数にびっくりした。千人近く居たのではなからうか。

その日の夕食は豪華であった。赤飯に尾頭付き、ここ数年見た事も無い御馳走が並び本当にびっくりした。通常の食事の内容は記憶にないが、麦飯ではなく大盛りの白米であった事だけは記憶に鮮明である。予科練に入って良かったと思つたことだった。

四、日常訓練

翌日から早速訓練が始まった。朝飯前の駆け足、広い運動場では我が分隊と同じく大勢の練習生が班長さんから怒鳴られながら走っていた。汗びっしょりになった体を拭いて朝食。食事前に起立して唱えていたのは何だったか、中々箸を取らせてくれなかった。「早飯、早糞、三步以上は駆け足、衣類の洗濯」記憶に残っている班長さんの訓示だった。

兵舎は木製二段式ベッドが整然と並んだ寝室と小学校二教室分位の教場、そして教官室の三室からなつていたと思う。教場は甲板と称し座学は勿論、食堂、体育場ともなり時には海軍精神注入の場ともなる万能の部屋であった。床はピッカピッカに光っていた。毎日の甲板掃除の故である。この甲板掃除と言う床掃除は私にとって苦しい時間であった。相撲の蹲踞の姿勢か

ら足を交互に前に伸ばし雑巾がけしながら進むのである。足が真つすぐ伸びず怒鳴られどおしであった。

記憶は薄いがモールス信号訓練や手旗信号訓練、徒歩訓練、駆け足等で汗を流した。座学もあつたと思うが記憶にない。軍人勅諭と、もう一つ何か暗唱を強いられた。

何日か置きに総員鉄拳制裁があつた。「足を開け、顎を引いて歯を食いしばれ」の号令で一列横隊に並んだ練習生を分隊長以下四人の班長が次々に殴つて行くのである。これは罰を受けると云うより、海軍精神を注入して貰つたと云う意味で、最後は「有難うございました」と言つて終わった。なお黒板の脇には「海軍精神注入棒」と墨書された野球のバットを一回り大きくしたような棒が掲げてあつた。

五、入浴

入浴の事を「バス」と言つた。これが奮つていた。三メートル×五メートル位の浴槽に五、六列に整列した真つ裸の私達は号令によつて、両手とタオルを頭に載せ首まで浸かつて、こちら側から向こう岸までしゃがみ歩きして行くのである。バス係の兵長が長い棒を頭すれすれに振り回すのでうっかり身体は上げられない。向こう岸に着いた者は順次石鹸を使って限られた

量のお湯で体を洗い、又々号令で前と同様の姿勢でバック、入浴終りである。この間僅かに数分間、全員が揃うと隊伍を組んで兵舎まで駆け足で帰るのである。三步以上は駆け足と言う練習生の鉄則があつた。兵舎に帰り着いた時は汗ビッシヨリの毎日であつた。湯の中で両手を挙げるのは、浴槽内で陰部に触れさせない為と聞いた。

六、対戦車特攻訓練

入隊一カ月位経っていただろうか。有名な元寇防塁のある海岸で対戦車特攻訓練を受けた。小さなスコップで自分の体のある穴を掘る。所謂「蛸壺」と言われる奴である。深さは一メートル位だったろうか。三十センチ角位の頑丈な木製の箱、多分砂が入っていたのだろう、とても重かつた。これを抱えて「蛸壺」に身を潜め、敵の戦車が来ると穴から飛び出して戦車のキャタピラ目がけて箱を投げつける訓練である。箱は重くて一メートルも飛ばない。班長から怒鳴られながら砂まみれになって訓練を受けた。今思うと自爆の訓練に外ならない。憧れていた練習機の姿は見た事もなかつた。

七、大村海軍航空隊

三カ月位過ぎただろうか。私達の分隊は大村の海軍飛行場へ移動した。兵舎はバラック三角兵舎、一棟に一班三十名弱が詰め込まれた。そこは大村の海軍飛行場脇の松原と言う集落であつた。我が家に届いていたその時の手紙を見ると、住所は長崎県大村市竹松局気付福岡隊一九四班となっている。

私達の仕事は、集落のあちこちに構築されている掩体壕から、飛行機を滑走路まで引き出したり、入れたりする作業であつた。大きな飛行機や小さな飛行機もあつたが、私達は蟻が獲物に群がるように機体に取り付き、掛け声を掛けながら押して行くのである。今思うとあれはきつと米艦に体当たりする特攻機であつた。

その頃、軍隊も食糧が欠乏していたのか、私達予科練は腹ペコの毎日となつた。福岡ではこんな事は無かつたが、ここでは食器の縁すれすれの飯にヒジキの味噌汁にタクアン二切れだったと記憶している。特に塩が欠乏していたようで、我々はどこから手に入れたか、それぞれ小さな竹筒に塩を忍ばせて隠し持っていた。このような食生活の中で毎日のように空襲を受けて、肉体的にも精神的にも皆へトへト、私は口には出さなかつたが、早く戦争が終われば良いと密かに思い続けていた。多分、

皆もそうであったと思う。

八、空襲

或る日、不意にグラマンの空襲を喰らった。防空壕に入る間もなく私達は近くの畑の中に頭から飛び込んだ。私達を狙うかのように低空で突っ込んで来るグラマンの激しい射撃音に生きた心地がしなかった。空襲が終わって気が付くと、近くに構築されていて、見慣れていた対空陣地の機銃が見事に吹っ飛んでいた。あそこの兵隊さんはどうなったのだろう。見に行く事は許されなかった。

九、総員バツター

腹ペコの毎日が続く中で、私達も確かにだらけていた。そんな或る日の夕方「総員整列」が掛かった。それは、入浴から帰って三角兵舎で夕食の配膳を待っていた時であった。皆の予感がある中して、久し振りに海軍精神注入の儀式が始まるのである。私の隣席は大分県出身のH君である。彼は機転を利かせてトッサにふんどしの中にタオルを忍ばせ尻を被覆したのである。

私達は覚悟して整列した。注入棒は鶴はしの柄だったと思う。注入棒による気合い入れは、大村に来てから二回目である。近

頃だらけ出した私達に対する例の先任下士官の激しい海軍精神注入が始まった。前回は一発ずつであったが、今回は三発ずつである。はつきり記憶している。気絶する位の激痛であった。

余談ではあるが、海兵団では木製の注入棒の外に海水に漬けた太めのロープも使われていたと言う。これを喰らうと大きな体があぶつ飛ぶと聞いた。勿論私達は経験しなかったが、この鶴はしの柄も凄く効いた。私も耐えた。私の次にH君が喰らった。H君も耐えた。その時、班長が慌ててH君のズボンを脱がせた。班長はテッキリ尻からの出血と思ったのだろう。所が、ズボンの下から例のタオルが発見された訳である。入浴後のタオルはまだ湿っていたのである。サア大変な事が起こった。通常の場合、バットを受けるときは両手を上に伸ばしケツを突き出して踏ん張るのであるが、特別の場合はもう一人が当人の両肩を前から両手で支えるのである。その支え役が隣に並んでいた私であった。オスタップ（桶）に水が準備された。気絶したときにブッカケルのである。話に聞いてはいたが現実起こったのである。五つ、六つ、…何発目だったろうか、H君の体がガクンと崩れた。「水掛けい」班長の声は今でも耳に残っている。頭から全身にオスタップの水が掛けられた。しかしH君は立ち上がる事が出来なかった。兵舎に抱え込まれたH君のケツは青黒

く腫れ上がった。ほんとに酷いものだった。隣の席の私は当然の事ながら彼の尻を冷やしてやった。この時も早く戦争が終わればよいと思った事だった。

後から聞いた話ではあるが、福岡海軍航空隊の司令は鹿児島出身の飛田と言う大佐で、この人は予科練習生に対してはバッテリーによる海軍精神注入を堅く禁じていたと云う。

十、K先輩の事

五十市学友団で二年先輩のKさんは、私達より二年前に「甲飛」に入隊された人だ。

終戦間際のある日、私と伊地知君と荻原君が特攻兵舎に呼ばれた。そこにKさんが居られた。この辺の記憶が途切れているが、いよいよ突っ込む事になったので来て貰ったと云われた。朝食の時、箸立てから取った箸の先に印がしてあり、これを引いた者が次の特攻出撃者である、と話された。出撃にはまだ何日か間があるが、お別れだと言ってたくさんの御馳走を戴いた。肉の缶詰めやパイナップルの缶詰め等、我々の兵舎では想像も出来ない夢のような御馳走だった。兵舎には他にも先輩方がゴロゴロしておられたが、多分特攻出撃待機の人達であったのだろう。K先輩が何時飛び立たれたか、その後連絡は無く判ら

じまいで終戦を迎えた。

※近年になって、と言っても二十数年前の都中の同窓会で、五十市学友団出身のT君にこの話をする機会があった。T君はK先輩とは親しい間柄であったとか、私の話を聞いたT君は東京在住中のK先輩に連絡、直後東京のK先輩から私に電話があった。K先輩は「特攻出撃直前に終戦になり生き延びた。東京で事業を始めて細々ながら社長をしている」旨の電話を受け感涙に咽んだ事があった。

十一、原子爆弾

二十年八月六日広島に原爆が投下された。私達は知らなかった。翌々日の八月九日、その日はよく晴れていた。空襲警報のサイレンが鳴り、私達は所定の防空壕に避難していたが一向に空襲がないので三々五々防空壕から外に出ていた。閃光を見た筈だが記憶がない。しばらくして爆風を感じた。それは大したものではなかったが、何か異様な雰囲気か漂った事を記憶している。あれは日本が密かに開発した空中爆雷であると班長さんが説明した。長崎が壊滅的にやられた事を知ったのは一夜明けからであった。

大村湾を挟んだ私達の大村海軍航空隊に直接の被害はなかつ

た。

十二、終戦

八月十五日、天気の良い暑い日であった。大勢の人達に混じって私達予科練も整列した。何か何だか判らなかつたが、あれが玉音放送だったので。そして日本が負けた事を知つた。私は別に驚かなかつた。日本必勝を信じて戦死された先輩方や、死を覚悟して待機されていた特攻隊の先輩方には誠に申し訳ないが、私はほんとにホツとした。家に帰れると思つた。今だから言える偽らざる気持だつた。他の者達はどうかだつたのだろう。

十三、復員

終戦から何日か経って、入隊当時から番長的存在であつた佐世保中学出身の目と言う奴が「みんなで班長を殴ろう」と言いだした。シーンとなつた中で「それは止めた方が良い」と阻止したのは鹿児島県川内中学出身のM君であつた。何時もはおとなしい男だつたが勇氣ある男だと私は敬服した。

何日かが過ぎてから解散があつた。私は持てるだけの荷物を衣囊に詰め込み、松原駅から汽車に乗り込み谷頭駅に向かつた。駅で汽車を待つ間、抜刀した下士官が暴れて怖かつた事、汽車

の中でも刀を振り回す軍人がいた事、通路は勿論、網棚の上、そし列車の屋根の上、石炭車の上まで復員する軍人達が鈴なりであつた事が印象的である。

松原駅を発つてから何日掛かつたか、何処をどう通つたか記憶にないが、真夜中の谷頭駅に降り立つた時、外は台風模様であつた。風雨の中をビショ濡れでたどり着いた我が家は寢静まっていた。(父の日記によると八月二十六日) 何故かコッソリ帰つた様だつた。多分テレ臭かつたのだろう。イロリで杉の葉を燃やす音に父が跳び起きて来た。母も起きて来た。多分みんな起きて来たのだろう。その内、朝になつた。

「日本は降伏したが、佐世保海兵団は降伏しない。最後まで戦うので復員した者は至急集まれ」との噂が聞こえた。色々な噂が行き交つたが、私は全然行く気はなかつた。それでも、しばらくは戦々恐々の日が続いたが、何時の間にか沙汰やみになり、本当の終戦になつた。

あとがき

本稿は、私が三十年位前に書いていた「思い出」の記を整理したものです。「私の軍隊生活」を知る記録はタッタこれだけです。昨日の事すら忘れがちな八十六歳のボケピンタで七十年

前の出来事はもう夢の彼方でした。今更ながら「書いて遣す」事の大切さを痛感させられました。そして「書いて遣す」本誌『庄内』の存在価値を改めて認識した次第でした。 終わり

(補足) 復校

戦争が終わり学校が再開された。焼夷弾で空爆された我らが母校は無惨にも焼け爛れ、柔道場、剣道場、銃器庫等木造舎屋は全焼、鉄筋コンクリート構造の三階建て教室の窓ガラスは割れ、机椅子は勿論黒板も燃えていた。後は記憶が動かない。

当時の状況を「都城市史通史編」の中で見つけたので転載する。

「県立都城中学校の校舎は鉄筋三階建て、外郭だけが残っていた。学校の授業再開はまず内部の焼け跡整理から始まった。焼け残ったものをもつこで外部に運び出す作業である。同時に焼け爛れた天井の漆喰を、家から持参した物干し竿で落とした。何時天井から落ちてこないとも限らないからである。内部の整理が済むと、次は何と言っても机、椅子が無ければ授業が始まらない。椅子は各自有り合わせの木片で作って来た。机は一応写生で使う画板で間に合わせ、小学校より借り受けた黒板一つしか無い殺風景な教室での授業が始まった」とある。先生方の

御苦労は推して知るべしである。

私達は、終戦を挟んだ未曾有の時代、物心両面、苛酷な環境の中で五カ年間の中学生を送った。青春のまつただ中、私はそれなりに楽しんで来た。そして貴重な体験を誇りに思っている。



ぼけ老人のひとりごと

町区 矢野次男

「僕は軍人大好きよ

今に大きくなったなら

勲章つけて剣下げて、

御馬に乗ってハイドウドウ」。

意味も判らないまま口ずさんでいました。小学校に入る頃、戦争という暗雲が渦巻き、満州事変が起り、日中戦争に突入し、日本の侵略戦争が始まりました。子どもの遊びも戦争ごっこが主流で路地裏を走り回っていました。

小学校高学年になる頃は、町はずれの牧の原台地の町境にまで行って出征兵士を見送りました。また、庄内の十字路では、無言の凱旋をする遺骨を出迎え、講堂では町葬に参列という繰り返しでした。日本の勝利を目指し、国のため、陛下のために「尽忠報国」「国家総動員法」のもと、自然と洗脳され、昭和十四年高等小学校を卒業し、翌十五年一月、十五歳（現在の中学

三年）で、志願していた軍属の採用通知があり、南京に向かうことになりました。心身ともにまだ子供で、西も東も分からないまま先輩のあとについて谷頭駅を出発しました。

これから行く所は、広々とした荒野にバラック建ての兵舎があるのか。それとも見渡す限りの大雪原の中にあるのかと、いろいろ想像をめぐらし、長崎港から上海丸に乗船しました。ドラの音を聞きながら日本を離れます。しかし、感傷的な気分もなく、子供心にも頑張らねば、もう後戻りできないのだと自分に言い聞かせたものでした。

濁流の揚子江を遡り「ぼーッ」という汽笛の余韻を聞きながら、上海に到着しました。翌朝、見た事もない大雪の上海駅から南京へ向かいました。南京駅には、山口武郎さん（有馬栄子さんの兄上）が出迎えに来てくださっており、司令部に到着。私服から軍服に着がえるため、被服倉庫で軍服を受領します。甲種合格の立派な体格をした人に合わせた軍服は、貧弱な体格の私に合うはずがなく、軍靴もブカブカで足が抜けそうなので合わせるのに一苦労しました。奇妙な軍人姿が出来上がりました。

仕事の内容は、給仕係と将校宿舎の係りでした。事務室では一番年下で皆さんに可愛がられました。総司令部が創設した私

立学校があり、一般教養は勿論のこと、軍事教練、銃剣術を主に教えられました。生徒数は三〇〇名位で心身ともに鍛えられました。そこには宮崎、鹿児島出身者が多く、憩いの場にもなっていました。そこでは、終生の友を得、近年までお付き合いしていました。希望に燃え、充実していた青少年時代でした。

総司令部には、後にA級戦犯となった畑俊六、板垣征四郎等々、陸大出身の優秀な人材がそろっており、三笠宮も軍人名「若杉参謀」として赴任して来られました。その参謀の当番兵として、私を含めて二・三名が候補になりました。その候補選びのための家庭調査は厳しいものでした。私の家にも憲兵がやって来て、家庭調査（家族関係、動産・不動産の有無等）をやったと言います。その結果、私は、母子家庭であり、家柄が悪いという事で不採用になりました。

現在の高校生が大学受験に没頭しているように、戦地にいた同年代の私たちは、戦うための学校を夢見て、「七つボタンは桜に錨」の服を着て、真っ白なマフラーを首になびかせ、特攻機の操縦桿を操る姿の予科練に魅せられて受験しました。またこの時期、総司令部の高等官食堂に女子がウェイトレス、タイピスト、電話交換手として登用され始めていました。

昭和十九年頃になると戦果は思わしくなく、軍人は消耗品扱

いにされ、それまでは陸軍の兵隊は二十歳で徴兵検査を受け、二十一歳で入隊するのが通例でしたが、私たちは一年繰り上げ十九歳で検査、二十歳で入隊となり、私も十九歳で検査を受けました。最後に試験官の前に立つと、「君は少年飛行兵にも合格しているが、君は母ひとり子ひとりだから君が戦死するとお母さんが泣くぞ」と言われた時、私は「ハイッ、母は泣いて喜んでくれると思います」と即座に答えた事を思い出します。

今考えると十九歳という年齢で、どうしてあんなことが言えたのだろうかと思います。洗脳されるとは本当に恐ろしいものです。現在、家庭を持ち、自分の子どもが戦場に駆り出されて、戦死して喜ぶ親がどこにいるでしょうか。我が子は、どんな形でも生きてほしいと願うのが親であるはずです。戦争とは実に恐ろしく悲惨なもので、何の得にもならず、そして後味の悪いものです。

昭和十九年十月新田原の飛行学校に入校。適性検査の結果、熊本の機上通信で教育を受けました。期間は一年で卒業する促成栽培のようなもので基本から教わるのではなく、要点だけを教わる雑な教育です。毎日ツートン・ツートンとモールス信号の通信教育でしたが、三カ月程度で受信が出来るようになりました。暗号の組み立て解読無線機の取り扱いを、卒業するまで

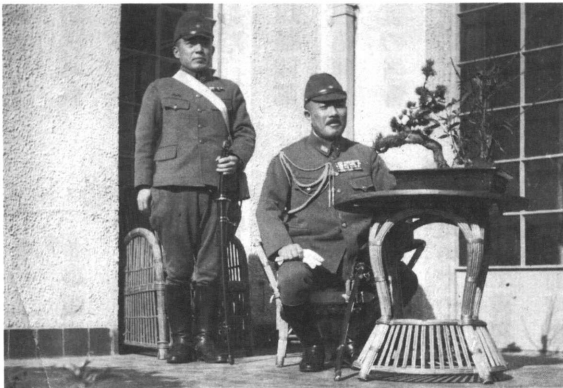
の一年間で修得しなければならないものばかりでした。その上、軍人精神注入と言って、革のスリッパや軍帯で叩かれながらの軍隊生活でした。でも、後に続く者を信じて南海の藻屑と消えた若桜先輩飛行兵の後を追うべく努力してきた私たちでしたが、八月十五日の敗戦で終わりとなりました。

私には、敗戦を聞いてもそれが本当の事なのか信じ難い一日でした。それでも、夜になり電燈の覆いも取り外され、明々とした電燈の光がまぶしく、有難く幸せを感じる平和な時代を迎えることができました。

終戦前、学徒動員と言うものがあり、大学卒業を間近に控えて、胸を膨らませていた蕾の若人が否応なしに戦場へ赴かされました。その壮行式が神宮球場外苑であり、雨の中、勇壮・活発な行進曲に送られて、「国の為」と言って尊い命を戦火の中で散らせてしまいました。将来の日本を背負って行くこの若者たちを失ったことは大きな損失です。最後に、戦争を経験した者として、今の日本政府のアジア外交には危惧する所があります。私は、遠くの親戚（アメリカ）より、近くの他人（中国、韓国）との付き合いを大事にすることだと思えます（注

1）。「念ずれば通ずる」という言葉があります。政府の要職にある人が、本当に韓国、中国との国交を考えるのなら、隣国を逆なでするような言動はいかがなものかと思えます。そのような言動は慎むべきだと思います。

注1 勿論、歴史的に過去にさかのほれば、中国、韓国の方が、日本とは人類学的にも文化的にも「親戚」である事は事実です。



板垣征四郎（矢野さん提供）



左から双葉山・羽黒山・男女川（矢野さん提供）

庄内町情報

都城市・荘内町

合併五十周年記念祝賀会

庄内地区まちづくり協議会

旧荘内町は現在の庄内地区（庄内町・関之尾町・菓子野町・乙房町）と西岳地区（高野町・吉之元町・美川町・夏尾町・御池町）からなっていました。昭和四十年四月一日に都城市と合併して五十年の節目を迎えました。半世紀が経過し、合併という歴史的事業を祝賀し、後世に引き継いでいくために庄内地区まちづくり協議会と、西岳地区まちづくり協議会は共同で合併五十周年記念祝賀会を平成二十七年四月四日（土）中山荘にて開催しました。

池田宜永都城市長、江内谷満義都城市議会副議長、黒木哲徳都城市教育長他多くのご来賓を迎え、両地区から約四百十名の参加がありました。オープニングでは庄内町西区に伝わる南洲

太鼓の力強い演奏で始まり、庄内地区まちづくり協議会の釘村美千也会長及び西岳地区まちづくり協議会の坂元和雄会長の主催者挨拶がありました。

両会長とも荘内町時代に共にまちづくりに取り組んだ歴史を踏まえ、これからも両地区・都城市の発展のために協力して行く決意を話されました。その後、池田市長・江内谷副議長より祝辞をいただき、祝賀郷土芸能として菓子野町千草地区の千草奴踊が披露されました。千草地区の子どもたち十三名が昨年新調した衣装で華やかに踊り、祝賀会に華を添えました。黒木教育長の音頭で乾杯を行い、その後は両地区一緒に歓談となり、懐かしい顔を見つけては話に花が咲き、大いに賑わいました。以下に当日配布したパンフレットの内容を掲載します。

都城市・荘内町合併五十周年を記念して

庄内地区まちづくり協議会 会長 釘村 美千也

荘内町と都城市が昭和四十年四月一日に合併し五十年、ここに多くの地域の皆様と御多忙のなか御臨席を賜りました来賓の皆様を迎え、盛大に合併記念祝賀会を実施できることを、共に



心からお慶び申し上げます。

合併時の蒲生昌作市長の挨拶に
「大同団結一体となって希望に満ちた新市建設の大事業推進に共々邁進いたしたいと存じます」とあり

ります。合併時の庄内町民の思いには希望・不安等、賛成反対のいろいろな意見があった事と思います。合併から五十年、庄内地区の発展に尽力され今日まで導いて頂いた諸先輩方々に心から感謝申し上げます。

思い返しますと、合併前から行われていた体育まつりは合併後も昭和四十年十月第一回として引き継ぎ、公民館長が中心に青年団、壮年団、婦人会の協力を得ながら地区民総参加の行事として最高の盛り上がりでした。昭和五十四年には宮崎国民体育大会が行われ、庄内、西岳地区が自転車ロードレース会場になりました。

平成八年庄内地区社会福祉協議会の設立と地区の福祉活動計画の策定等の取り組み、元気づくり委員会による地区の活性化等の事業も展開されました。体育まつり中止後は、庄内三大イベントとして平成二十六年度で庄内ふるさと祭りが二十九回、庄内川一周YOU遊駅伝大会が二十回、スポーツツレクリエー

ション大会が十五回、年々内容も充実し新たな庄内地区の伝統行事になりました。

平成五年大雨による大水害、平成二十一年新燃岳噴火による降灰被害、平成二十二年のゲリラ豪雨による河川の氾濫等の災害もありました。

庄内地区は霧島山系高千穂峰を源流に西岳千足川から庄内川に、その流れは昔日と変わらぬ流れを青々と漂わせています。関之尾から乙房大淀川合流地点まで八キロメートル、この庄内川両域に関之尾町（川崎区、関之尾区）、庄内町（西区、町区、東区）、菓子野町（今屋区、千草区、宮島区）、乙房町（乙房区、平田区）の十自治公民館に三千六百戸八千人が営む庄内地区、日本の滝百選に選定された関之尾滝、都城島津家発祥ゆかりの墓所や由緒ある寺社も多く、また各地区に伝承の郷土芸能も多数あり、歴史と文化のある人情豊かな土地柄です。私達は庄内地区を一層住みよいまちにするため、三年間の検討会議をかさね、平成二十二年四月、庄内地区まちづくり協議会を発足させました。地区内各団体を網羅し、自分達で出来ることは自分達で「みんなでつくる住みよいまち庄内」をめざし活動していきます。

主な活動としては先ほど申し上げました三大イベントの開催

をはじめ、地域の中心を流れる庄内川の堤防が、地区住民のウォーキングコースや中学生等の通学路にもなっていることから、地域の各団体と協力して草刈りを実施したり、観光客向けに関之尾滝のライトアップや無料休憩施設の建設等も行ったりしています。

また地区内の小中学校の児童・生徒に対し、郷土を知り自分の生まれたまちに誇りを持ってもらうために歴史・文化の学習支援に力を入れています。平成二十三年から庄内中学校の一年生を対象に地域の史跡や寺社を巡る「地域巡見学習」を実施、各小学校に対しても四・五年生の遠足や郷土学習の支援を行っています。

さらに平成二十六年度からは市の地域活性化事業を活用し、地域内史跡や観光地の整備、地域の魅力を発信するための動画作成等に取り組んでおります。

庄内地区のことばかり申し上げましたが、都城市との合併から五十年の歳月が流れ、若い世代では庄内町のことを知らない人も多くなってきました。この記念祝賀会をきっかけにもう一度庄内・西岳地区が一緒にまちづくりに取り組んだ歴史を思い返し、市と共に両地区の発展に取り組みたいと考えております。

最後に、庄内・西岳地区の皆様の御多幸と御健勝を心から祈

念いたしましたして実行委員代表あいさつといたします。

都城市・庄内町合併五十周年を記念して

西岳地区まちづくり協議会 会長 坂元和雄



皆さんこんにちは。本日は庄内町（庄内町、西岳町）と旧都城市が合併し五十周年を迎えるのを記念式典と言うことでご案内を申し上げます所、都城市長 池田宣永様、

都城市議会副議長 江内谷満義様、都城市教育長 黒木哲徳様、市民生活部長 杉田淳一郎様関係各位のご臨席を賜り、又四百名有余の庄内、西岳の有志の皆さんに出席頂き衷心より厚くお礼申し上げます。

ご案内のように昭和四十年四月一日庄内町と旧都城市が合併し、都城市西岳町となり合併時の人口は六一五〇人有りましたが五十年間で当地域は四千人の人口減となっております。

西岳地区は都城市の中心部からみて北西部に位置し、市役所から西岳地区市民センターまで約二十キロメートルの距離があ

り、西側は霧島市、南側は曾於市へ隣接しており、地区の面積は市の十五地区ある中で一番広い一〇三・二三平方キロメートルで、六八％が山林や原野になっている中山間地であり、地区の一部は霧島屋久国立公園になっております。

西岳地区は美川町・高野町・吉之元町・御池町・夏尾町の五町からなり、平成二十七年三月一日現在の人口は二千二百二十九人であり、六十五歳以上の高齢者が五四％を超え、都城市平均二七％の倍を超える超高齢化地域でありまして、また管内の小学校（四校）中学校（二校）の児童、生徒数は平成二十七年三月一日現在八十一人で少子高齢化が進み、人口は減少し続けています。しかし霧島山の峰の裾野に広がる豊かな大自然の恵みをうけ、山々からの清らかな湧き水、緑豊かな大地の中で生活できる幸せな地域でもあります。

地域活性化のためにも高齢者の生きがい作り、一人暮らし高齢世帯への見守り活動、空き家対策、地域文化の継承、地域リーダーの育成等早急に取り組まなければならない課題が山積しています。

大自然の中で安心して暮らせる地域、住み慣れた地域で暮らせる為に十一公民館が手を携えて活動を進めて行き、また、平成二十三年一月二十六日新燃岳噴火の教訓を糧に台風、土石流

災害、地震等に対して各自治公民館が独自の安心安全な防災体制及び避難体制の確立、予測、準備を怠らない様に行政と一体となり地域住民を支えて行きたいと考えております。

今、地域を取り巻く課題も多種多様で、都市化、情報化の進展等に伴い、人々の価値観や生活スタイルが多様化する中で、現代社会は人間関係や地域における絆の気薄化、地域コミュニティの崩壊など様々な課題を抱えているので、地域の絆を深め連帯感なくしては地域の発展はないと思いますので、西岳地区まちづくりの基本理念となっている自然豊かで、人情味あふれる笑顔のまち西岳を構築し活性化を図って行きたいと考えております。

終わりになりますが、荘内町と旧都城市の合併五十周年記念式典が充実した素晴らしい式典になりますように、心からご祈念申し上げますが、実行委員を代表しての挨拶と致します。

ありがとうございます。

祝 辞

都城市長 池田 宜永



らお祝い申し上げます。

合併が行われた昭和四十年から今日までの五十年間は、社会・経済各般にわたって大きな変化の時代でありましたが、郷土を愛する先人のためまぬご尽力により、市勢は発展の一途をたどることができました。本市発展の礎を積み重ねてこられました先人とすべての市民の皆様には深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

その後、中郷村との合併を経て、平成十八年一月に今の新都城市が誕生しました。「市民の願いがかなう 南九州のリーディングシティ」を都市目標像に掲げ、産業・経済・教育・文化の拠点都市として、さらなる発展を目指しております。来年

は新市誕生十周年を迎えます。これを記念して様々なイベントが計画されておりますが、皆様とともに盛大にお祝いしたいと考えておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

本市には、「農林畜産業」「地の利」「次世代を担う子どもたち」という三つの宝があります。未来へと導くこれらの宝を輝かせるために、六次産業化の推進をはじめとする農林畜産業の振興に力を注ぐとともに、基幹道路の整備を進めることで地の利をさらに拡大させ、人間力あふれる子どもたちを育ていくことで、「笑顔あふれるまち スマイルシティ都城」を創り上げていきたいと考えておりますので、皆様により一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、この五十周年記念事業の実施にあたり、ご尽力くださいました実行委員の皆様には感謝申し上げますとともに、地域の皆様のご健勝とご活躍を心よりご祈念申し上げます、祝辞といたします。

都城市・荘内町合併五十周年記念誌発刊に寄せて

都城市議会議長 永山 透



都城市・荘内町合併五十周年を心からお喜び申し上げます。

また、記念パンフレットを発刊されるにあたり、庄内、西岳のまちづくり協議会はじめ関係者

の皆様の並々ならぬ御熱意と御尽力にあらためて敬意を表します。

市の統計書の「市の沿革」の中には、平安時代に島津荘と呼ばれた荘園が平安末期には薩摩・大隅・日向三カ国にまたがる日本一の大荘園となり、その中心であった都城盆地は中・近世を通じて「庄内」と呼ばれていたことが記されています。まだ「都城」という地名が生まれる前のことです。

その後、様々な変遷を経て十六世紀半ば頃、北郷家の支配の下「都城」と呼ぶようになったとあります。

そして、明治になって版籍奉還が行われたあと、「上庄内」「下庄内」という郷名が出てきますが、明治四年には、その「上庄

内」が「荘内」に改称されたということですから、「荘内」という地名は、相当古くから使われているわけでございます。

この荘内地区は、その長い歴史の中で育まれてきた素晴らしい文化を大切に受け継いでこられました。そして、観光資源にも恵まれ、「日本の滝百選」に選ばれた関之尾の滝をはじめとする壮大で美しい自然を有する地域でもございます。

昭和四十年四月一日、当時の都城市と荘内町とが合併しましたが、その合併により都城市の市域は一気にそれまでの二倍以上の二百三十一・三五平方キロメートルになりました。

合併当時の「市政の歩み」には、昭和三十一年七月の庄内町と西岳村との合併時から一部で、都城市との合併に積極的な動きがあったことが記されています。

その後も、荘内地区におかれましては、地域の方々が一体となられて、これまでの伝統と文化を大切に守り育てながら五十年の歴史を刻んでこられたところでございます。

そして、時代は平成にかわり、平成十八年一月一日に、都城市は北諸県郡四町と合併し今年十年目を迎えたところでございます。

私ども市議会としましても、今後も都城市の均衡ある発展を目指して力を尽くしてまいりますので、何卒引き

続き御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、庄内地区と西岳地区のまちづくり協議会が中心となられ、この庄内地区がこれまで培ってこられた地域の伝統や文化を継承しながら、新しい都城市を支えていただき、地域がさらなる発展を遂げていかれますことを御期待申し上げますとともに、皆様の御健勝と御活躍を御祈念申し上げます、お祝いの言葉いたします。

都城市・庄内町合併祝賀会での蒲生市長挨拶

昭和四十年四月二十三日 都城市長 蒲生 昌 作



新緑照り映えるこの佳き日、都城市と庄内町との合併祝賀会を開催いたしましたところ、御多忙中にもかかわらず宮崎県知事殿をはじめ、多数の来賓ならびに関

係各位の御来臨をかたじけのうし、誠に光栄に存じ厚くお礼申しあげます。

庄内町は北諸県郡内で面積・人口ともに最も大きな町であり

ましたが、一般の合併により新都城市は人口十一万人、面積二百三十平方キロメートルとなり、全国五百六十都市のうち百五番目の大都市として発足することになったのでありますが、今回の合併にあたりましては、自治省行政局、県当局、県議会、両市町議会をはじめ関係住民各位の終始変らざる深い御理解と積極的な御高配と御協力をたまり極めて円満かつ順調に進展いたしましたことは、衷心より感謝にたえません。特にさきに公布されました「市町村の合併の特例に関する法律」の適用をうけますことは、新市財政と住民の福祉増進に大きな影響がありますので、市いたしましたは慎重な配慮をいたしました結果、当初予定の三月一日合併を四月一日に変更いたしましたのですが、各位におかれましては、それぞれの立場において合併の趣旨に則し積極的な御理解と御懇篤なる御指導をたまわり、私たちの要望通り実現しましたことは、誠に感謝のほかならないところでありまして、このことは今回の合併が文字どおり天の時と地の利と人の和の渾然一体により生みだされたことを物語るものでありまして、今後は各位の示されました御懇情と御期待にそうべく一層の努力をいたし早急に新市の体制を確立し、広域行政の実を挙げたい所存でございますので、更に一段の御指導と御鞭撻を願って止まない次第であります。

当市と荘内町とは古くから歴史的、地理的、文化的に血縁の間柄、唇齒輔車の関係にあることは自他ともに認められているのでありまして、この基盤に立つて今回の合併となり、ようやく一体となりましたが、このことは歴史的、自然的住民交流の中から生れた必然の結果であつたとさえ思われるのであります。

荘内町は明治二十二年庄内村として発足されて以来、七十六年のながい間、歴代の優れた村長、町長の御尽力と住民各位の御努力によりめざましい発展を遂げられて今日に至つたのであります。さきに行なわれた西岳村との合併に伴う都市建設計画の遂行についても格段の成果を挙げられ、昭和三十一年には合併優良先進町として自治大臣表彰をうけられたのをはじめ、優良町として全国町村会長表彰や全国町村議長会長より、優良議会として表彰の栄に浴されるなど、町ならびに議会共に輝かしい業績を残されたのでありまして、荘内地区の各位の示された愛町の御熱情とたゆまぬご努力に対しましては満腔の敬意をささげて止まない次第であります。

当市におきましても、去る昭和三十三年三月一日旧志和池村と合併以来一致協力をもつて積極的に新市建設の推進につとめ、今日名実ともに都城市としての一体性を確立いたすことが

できたのでありまして、このたびの合併により策定いたしました新市建設五カ年計画の推進にあたりまして過去相互の経験と信頼を基として誠心誠意その実現に努力を惜しまぬ覚悟であります。

荘内地区のみなさんは長い歴史をもつた町制自治との別れに一抹の淋しさと不安があることは充分お察しできるのであります。現在の社会情勢の進展と合併の意義をよく御理解いただきますと共に、新しく市民となられた方も、またこれをお迎えした私共旧都城市民も過去における合併の貴重な経験をいかし、大同団結一体となつて希望に満ちた新市建設の大事業推進に共々邁進いたしたいと存じます。

特にこのたびの合併によりまして、霧島国立公園の高千穂峯、御池を含む地帯が市内に編入されましたことは、都城市の都市構造に画期的な大変貌を与えたのでありまして、今後この大自然にはぐくまれた産業的、観光的無限の宝庫を開発することにより、新都城市の発展に大きな夢が実現できますことを期待し、新市の前途に洋々たる希望をもつものであります。

新市建設の大事業は一朝一夕になるものではなく、多くの困難を伴うことが考えられますが、「事の成るは成る日に成るに非ず」と申しますとおり、今後市民が心を合わせ、力を合わせ

共々一丸となつて明るく豊かな住みよい大都市の実現に飛躍的な努力を致さねばならないことを決意する次第であります。

新しい都城市の発足と希望に満ちたその前途を全市民のみならずとも祝福いたしますと共に国県はもとより、県下各市ならびに近隣各町村の各位の変らざる御支援御協力を心からお願い申しあげ、郷土都城市がさらに発展することを深く祈念いたします。ごあいさついたします。

荘内町合併のあらまし

「みやこのじょう」(昭和四十年十二月一日発行)より

合併についての理由

北諸県郡荘内町は、都城市の西北部に隣接し、古来都城市と産業文化も一体をなして発展し、気候、人情、風俗を同じくするその地縁、血縁関係は極めて密接不可分であり、さらに交通の発達に伴い、両市町間の距離は時間的に著しく短縮され、経済的にも政治的にも一層緊密の度を加え、行政制度の変革、住民自治意識の高揚と相まって、両市町の有機的な結合が強く要請されるに至ったので、合併することにより一体性を確立し、自治行政の合理的運営によって、行政水準の向上を図るとともに、北諸盆地の飛躍的發展に寄与し、住民福祉の向上を図るため、ここに両市町協議し、合併を議決した次第である。

荘内町のあらまし

荘内町のあけぼのは、石器時代に始まり、藤原時代にはこの地方一帯を島津荘と称していた。

明治二年鹿兒島藩が設置され、都城郷を上荘内、下荘内、木尾山郷に三分したが、上荘内が今日の荘内町にあたる。明治四

年廢藩置県にともない上荘内は荘内と改められ、都城県に属し、同六年宮崎県が設置されるとともにこれに属したが、明治九年宮崎県の鹿児島県併合にともない鹿児島県に属した。

しかし、明治十六年宮崎県が再置され、再び宮崎県に編入され、明治二十二年町村制施行にあたって庄内・西岳で庄内村を形成したが、同二十四年分村して庄内村、西岳村をつくった。その後庄内村は大正十三年町制を施行、庄内町となった。

昭和二十八年には町村合併促進法の施行にともない、県の合併促進審議会において庄内・西岳両町村の合併が決議され、昭和三十一年両町村議会は合併を議決、その名もいにしえの地名にちなんで「荘内」と名付けられ、七月十五日をもって発足、人口一万九千二百七十八人面積も百三十・七六平方キロメートルとなり、北諸県郡最大の町となった。

合併後は町道の拡張整備に力をそそぎ、一方国道・県道の拡張整備、舗装工事等も着々進められた。また小・中学校校舎、屋内体操場等の整備充実をはかり、部落毎の簡易水道事業も実施され、昭和三十六年には月ノ原土地地区画整理事業により都市の一部を編入し、面積は百三十・八九平方キロメートルとなった。

農業構造改善事業も昭和四十年実施の指定を受け、教育・経

済の発展に大きな期待がよせられている。

合併当時の町三役

町長：横山新一

助役：宮里光広

収入役：白杵義美

合併当時の荘内町議会議員

乙丸国彦、今村武盛、上村寿

次、新穂利治、鶴島一二、岡

元信孝、大重勝哉、前畑実雄、

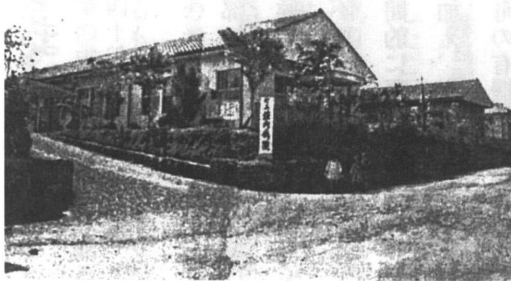
高野光盛、妹尾敬雄、津曲民

雄、立野正義、東野重雄、葉

丸利秋、東常次、岡元高夫、

日高真夫、岩佐道彦、前田武

平次



町立荘内病院



荘内町役場

庄内町集落別（男女）人口世帯数

昭和32年3月末

集 落 名	戸 数	人 口		
		男	女	計
乙 房	389	1,034	1,048	2,082
平 田	226	657	655	1,312
川 崎	189	497	494	991
関 之 尾	106	275	280	555
西 町	247	553	641	1,194
東 町	177	397	450	847
今 屋	352	827	861	1,688
千 草	197	595	572	1,167
宮 島	174	468	440	908
下 川 内	196	452	461	913
上 川 内	116	281	334	615
後 川 内	105	236	260	496
渡 司	43	140	140	280
上 大 塚	33	82	85	167
下 大 塚	24	59	57	116
高 野	27	78	72	150
荒 川 内	218	509	548	1,057
市 之 久 保	76	185	202	387
東 田 野	23	63	77	140
西 田 野	64	174	202	376
東 折 田 代	70	192	213	405
西 折 田 代	70	180	181	361
折 田 代	54	144	128	272
上 牛 ノ 脛	72	168	185	353
東 牛 ノ 脛	28	79	76	155
西 牛 ノ 脛	43	129	137	266
上 馬 渡	54	171	150	321
下 馬 渡	69	212	203	415
御 池 第 一	58	166	179	345
御 池 第 二	58	145	126	271
猪 ノ 子 石	51	103	61	164
霧 島 官 行	29	71	60	131
計	24	44	52	96
計	3,662	9,366	9,630	18,996

教職員及び児童生徒数

昭和32年5月1日

学 校 名	教職員数		児童生徒数			学級数
	男	女	男	女	計	
庄内小学校	18	6	538	522	1,060	22
西岳小学校	8	6	247	260	507	11
菓子野小学校	9	5	226	226	452	11
乙房小学校	8	5	181	204	385	11
吉之元小学校	6	4	141	157	298	8
夏尾小学校	7	2	148	132	280	7
夏尾小学校御池分校	2	1	51	27	78	3
庄内中学校	18	4	408	400	808	15
西岳中学校	13	2	242	259	501	10



庄内地区まちづくり協議会釘村美千也会長のあいさつ



庄内・西岳地区住民400名で万歳三唱

庄内小学校だより

校長 逆瀬川 秀夫

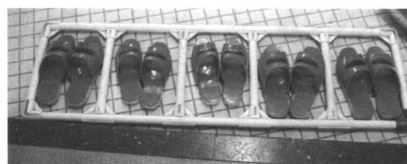
平成二十七年 児童数 百七十二名

合計	女子	男子	
27	13	14	1年
33	17	16	2年
25	9	16	3年
27	11	16	4年
28	14	14	5年
32	13	19	6年
171	77	94	合計

昭和二十五年には千五百人を超えていた庄内小学校の児童数も、昭和三十六年には九百人台になり、昭和四十六年には五百人を切り、平成二十年には二百人以下となっています。児童数の減少は如何ともしがたく、山間部等の小規模の小・中学校において、ほとんど学校の統廃合が進んでいるところのです。

庄内小学校は、一学年一学級です。だから、入学した子どもたちは、六年間同じ仲間と過ごすこととなります。そのことは、長所もありますが、短所もあります。やっぱり学年は、二学級以上あって、時々学級編成を行うことが子どもたちの好ましい成長を促すと思います。同じ顔ぶれで長く過ごしていると、競い合ったり、切磋琢磨したりすることがどうしても不十分になるような気がします。小学生は、学級編成がある中学生になることを楽しみにしています。たくさんの人に出会い、たくさん

はきものをそろえる
だまってそろえておいてあげよう



四月は、ほとんどの日がトイレのスリッパはいつもきれいにそろっていました。

五月七日(木)の十時ごろ、子どもたちが使う六つのトイレのうち、一か所だけが上の写真のようになっ

ていました。他のトイレは、どこもきれいにスリッパがそろって
いました。

「だまってそろえておいてあげよう」が実践できる思いや
りのある子どもを育てることを学校の取り組みとして実践
しています。

はきものがそろう〓心がよい方向にそろう〓落ち着いた学
校になる

○はきものをそろえることを強調し指導をすると、「先生、※
○君がスリッパをそろえませんでした。」と、言いに来る子が
出てきます。それは好ましくないと考え、はきものがそろって
いなければ、黙ってそろえておいてあげようを指導してしまし
た。いつも完璧ではありませんが、良好な状態の方が多いと感
じます。それとともに、子どもたちの学習の状況もよくなっ
てきていると思います。

修学旅行

(二日目)

六年 内村 峻 介

今日は、みんなといると楽しい、生きること大切で尊いと
いうことを感じました。

平川動物園では、班活動をする
楽しさや時間を守って活動するこ
との大切さを感じました。

ぼくが一番うれしかったこと
は、ホワイトタイガーに「おい！」
と呼ぶと、振り向いたことです。

知覧特攻平和会館では、戦争は
やってはいけないということと、
生きることの大切さを思い出しまし

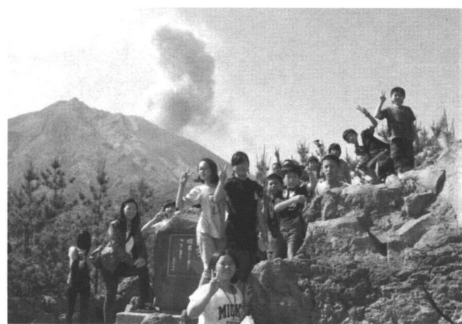
た。飛行機が突撃する様子を見ていた時、すごく悲しく
なりました。今は普通に生活しているけど、いつ戦争にまきこ
まれるのかわからないので、親を大切にして、命を大切にする
ことを実行したいです。

(二日目)

六年 宮 壽 恵 基

今日は五時三十分ごろに起きて、鹿児島中央卸売市場に行き
ました。たくさん魚が発泡スチロールの箱に入っていて、周
りにはたくさんの方がいました。

マグロの解体ショーでは、大きな包丁を使って骨まで切っ
ていました。すごいなと思いました。試食させてもらったマグロ



は、とてもおいしかったです。

ホテルにもどって朝食を食べた後、自主研修に行きました。路面電車に乗るときは、お兄さんがどの電車に乗ればよいかを教えてください、無事に乗ることが出来ました。チキンラーメンの電車も見ることが出来たのでよかったです。時間通りにはいかなかったけれど、よい経験が出来ました。

その後、サンロイヤルホテルで昼食を食べました。おいしい料理をたくさん食べることが出来ました。〇〇君の茶わん蒸し十五杯にはびっくりしました。

水族館では、イルカショーを見ました。他の学校のサッカー友達にたくさん会えたので楽しかったです。

雨の日の過ごし方

下の写真は、雨の日の昼休みに、六年生が一階のホールで下級生相手にクイズ大会をしているところです。

代表委員会で「雨の日の過ごし方」について話し合いを行った結果、静かに・安全に過ごすために『イベントをする・折り紙を教える。クイズ大会をする。読み聞かせをする。』が決められました。上級生も楽しみながら、下級生の世話をしている様

子がとてもほほえましく感じました。

六月二十八日は、お笑い大会でした。六年生がしつかりと仕切っていました。数組の芸達者な子どもが五十名ぐらいのお客さんの前で芸を披露しました。「ラッスンゴレライ！」がとても受けていました。子どもたちのこのような自主的な活動がもっともっと増えてくると、素晴らしい庄内小学校となると思います。



書く体力づくり

朝の活動の時間に視写に取り組んでいます。朝の活動の時間について文部科学省のHPでは、次のことを掲げています。

- ① 集中力をつける。
- ② 字が上手になる。
- ③ 文章表現の技法を覚える。
- ④ 表記のルールを覚える。
- ⑤ 暗しうや記憶に役立つ。

根気強く書き綴っていくことによって、書くことへの抵抗感を減らす効果もあるかと思えます。

十月に四年生の学級で算数の研究授業を行いました。その時、子どもたちの書く速さに参観していた先生たちが驚いていました。視写の活動が着実に成果を上げていることを実感しました。

行列のできる図書室

下の写真は、六月の雨の日の昼休み時間の図書室の様子です。貸出カウンターの前に行列ができています。今年は、このような状況がよく見られます。十二月までに全校生徒が借りた本は、約一万五千冊となっています。今年の貸出冊数目標二万冊に向けて順調に数字が伸びています。

本は、心と頭の栄養です。本をたくさん読んですくすく育てほしいと思います。



子ども知事になって

ぼくが子ども知事になって思ったことは、とにかく知事は分刻みで忙しく仕事をしているということです。賞状を渡すときには、「もう少し名前を短くすればいいのに。」というグループがありました。結局そのグループに賞状を渡すときにかんてしまいました。

記者会見の体験では、予想以上に難しい質問が出たけど、答えることが出来たので良かったです。意見交換会では、各課の方が細かく質問に答えてくださったので分かりやすかったです。

子ども知事でやったことは、河野知事にとっては序の口だったと思います。でも、ぼくは正直言つてとてもつかれました。



六年 藤村 悠真

※県知事になってどんなことをしたいかななどの応募作文を書

き、たくさんの子どもが子ども県知事に応募しました。その中から、三名の子どもが選ばれました。藤村君が応募した作文の中で特に目を引いたのは、次の文ではなかったかと思えます。「目標は、ずばり、宮崎県初の消防団の資格を持つ知事です。」



藤村君のお父さんは、庄内地区の消防団員として活動されています。そんなお父さんの姿を見て、啓発されたのでしょう。大人になったときには、きつと立派な消防団員となって地域の安全を守るために活躍・貢献することでしょう。



乙房小学校だより

校長 古川 久美子

開かれた学校づくりをめざして

一 はじめに

乙房小学校へ赴任した春、校門や玄関に「心のプレゼント運動」庄内地区まちづくり協議会」というのほり旗をみかけた。校区内の道路沿いには、「あいさつをしましょう」乙房自治公民館」というような立て看板が何カ所もある。聞けば、乙房小学校区を含む庄内という大きな地域を単位にした庄内地区まちづくり協議会という組織があるという。

近年、学社融合や学校支援地域本部事業など、学校と地域との連携は推進されてきている。これまで勤めた学校でも連携した教育活動の経験はあった。しかし、この地区のように、学校も協議会を組織するメンバーであるという立場は初めてであり、支援や連携を頼もしく思うとともに、地域をつくる人材、

つまり人作りを学校が担っているという責任を強く感じた。

学校経営にあたり、地域における学校の役割について努力したいと思った。学校経営の概略と地域をキーワードにした取組の一部を以下、紹介する。

二 教育目標と経営ビジョン

1 教育目標

自ら学び、心豊かに、力強く生きる児童の育成

2 めざす児童像

(かしこく) 目標をもって 進んで 学習に取り組む子

(やさしく) 礼儀正しく 明るく 思いやりのある子

(たくましく) 何事にも積極的に取り組み 最後まで

がんばりぬく たくましい子

3 経営ビジョン

「知」「徳」「体」の調和のとれた児童の育成をめざし、乙房小ならではの教育を計画的、継続的、組織的に実践すること、保護者や地域に信頼される乙房小学校を構築する。

4 重点目標

i 学力向上

- 目標と評価を明確にし、言語活動を工夫しながら、児童が分かる・できる授業を展開する。
- 朝のチャレンジタイム等基本的事項の定着を図るとともに、読書や作品応募を推進し、児童が自ら学び表現する意欲を向上させる。

- 個に応じた指導を組織的に継続して行い、一人一人の伸びを確実に見届ける特別支援教育の充実を図る。
- ii 心の教育の充実

- あいさつ運動や心のプレゼント指導習慣を通して、基本的な生活習慣の定着を図る。
- 道徳の時間の指導を中心として、教育相談や積極的な生徒指導を通して、命を大切にすることを醸成する。
- 児童会活動や交流学習など意図的な体験活動を通して、自他を大切にしたい望ましい集団の形成を図る。

iii 体力の向上

- 学習が成立するための立腰や保健指導を継続して行い、基本的な保健衛生習慣を定着させる。
- 体力向上プランを活用し、保健体育科の授業改善や

運動の日常化を推進することで、児童が自ら健康なからだづくりを実践できるように健康教育を充実させる。

- 給食指導や学級指導を徹底するとともに、家庭と連携しながら食に関する指導を充実させる。

三 開かれた学校づくり

1 学校運営協議会の設置

学校教育の目的は人づくり、子ども達を将来を託す「人」として育てることである。とりわけ公立学校では、地域を創造する「人」に育てなくてはいけない。社会の変化の著しい現代では、長期的な視点で「地域の将来」を見据えた教育が肝要である。学校だけで、教科書だけでは、社会の変化に対応した教育活動はできない。そこで、学校と地域が一つになり、子どもの教育に携わろうという目的で平成二十五年度に組織されたのが、学校運営協議会である。

地域、保護者の代表の方八名が委員として参加されている。学校の経営方針や教育活動について、協議や学校評価をしていただいている。協議会での意見を受けて、学校と地域と連携した教育活動の実施や児童の登下校安全見守り

などにおいて支援をいただいている。

i ふれあい給食

毎月校内の環境整備ボランティアにきていただいている方と、一年生児童による給食交流会を行った。感謝の気持ちを伝えるためにも、会話するというコミュニケーションの力を養う機会でもある。

ii ふれあいまつり

地域の方に講師となっていただき、もの作り体験活動を行った。地域の人材をふるさと先生としてお招きし、郷土料理、木工、竹細工、編み物、スポーツなど指導していただきながら、交流活動を行った。



iii 奴踊り伝承

自治公民館主催の六月灯の夏祭りには、高学年児童が

奴踊りを披露した。伴奏の三味線については、クラブ活動及び月一回の伝承芸能活動研究会活動として、地域の方に指導をいただいている。

奴踊りは、地域の福祉施設の夏祭りでも発表している。子ども達にとっては、自信をもって表現する場となっている。

2 庄内まちづくり協議会との連携

地域を乙房校区に限らず庄内地区全体とすることで、まちづくり協議会組織を活用させていただくことができた。

i 心のプレゼント運動

庄内全区をあげて青少年健全育成のための「心のプレゼント運動」が実施されている。学校においては、毎月「心のプレゼント週間」を設定し、児童会活動とも連携させ、あいさつを徹底できるように指導中である。来校者へのあいさつはできるが、まだ学校の外において出会った地域の方へすすんであいさつできる児童が少ない現状である。

庄内地区一貫教育でも、豊かな心の醸成のための取組

として、あいさつの徹底をめざし、継続して指導している。

ii 庄内ふるさとまつりへの参加

奴踊りの披露の場を庄内地区に広げ、堂々と表現できた。庄内小学校、菓子野小学校からも、伝承芸能の披露があり、庄内地区の伝承活動を知る機会となっている。

iii 社会科見学

今年度はじめて、第四学年の社会科学習で、関之尾の用水路開拓について、地域の方に講師となってお話をしていた。遺物を見て、その昔、地域の人が地域のために尽力したという具体的な事実を知ることができた。地域貢献への関心を持たせる良い機会となった。児童の日記から感想を抜粋して紹介する。

☆ わたしがこの学習で学んだことは、関之尾のおゆきさん物語です。とても悲しそうなお話で、二人とも天国に舞い上がっていったかなと思いました。このお話を大切にしたいです。

和田 汐莉

☆ 坂元源兵衛さんが、用水路をつくりあげたことがすごかったです。ほくも、あきらめずにすることを学びたいです。

税所 奏

☆ ほくは、前田用水路のことが勉強になりました。用水路を坂元源兵衛さんが協力しながらつくっていました。教えてくださってありがとうございます。

谷口 翔

☆ わたしは学んだことがあります。坂元源兵衛さんのことです。教科書にはのっていないことがたくさんあったので、お話をきいてよく分かりました。まちづくり協議会のみなさん、ありがとうございます。

花房 夏巳

☆ 坂元源兵衛さんが用水路をつくった話を聞きました。前田正名さんが、お金を貸してくれたのがやさしいと思いました。でも源兵衛さんがつくったのに前田用水路という名前が残っているのがちょっと気になりました。

東 未来

☆ この学習で、坂元源兵衛さんが、いろいろなくろうをしなから用水路をつくったことが分かりました。そのおかげで、わたしたちがいけることができます。これからは、もつと水を大切にします。

松永 桃花

☆ この前の校外学習の時はありがとうございました。坂元源兵衛さんが、みんなのためにがんばって用水路をつくったの

ですごいなあと思いました。紙芝居で教えてもらって、教科書よりも分かりやすかったので良かったです。

穴井 琉陽

☆ わたしは、坂元源兵衛さんと前田正名さんの話で、用水路がこうやってつくられたのだなあと分かりました。前田正名さんが、「源兵衛さんの力がないとできない」と言ったところがびっくりしました。みんな協力しないとできないと思いました。

岡元 稟羽

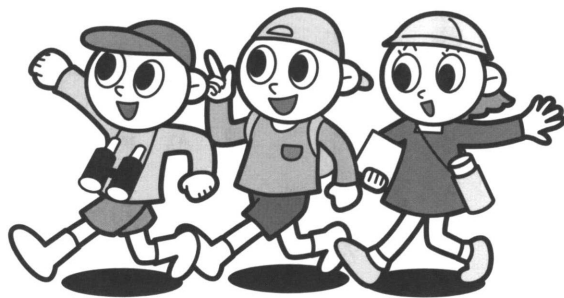
☆ わたしは、坂元源兵衛さんやおゆきさん物語を聞いて、いろいろなことが分かりました。源兵衛さんはいろいろなくろうを乗りこえて用水路をつくったんだなと思いました。畑や田んぼがあるのは、源兵衛さんの用水路のおかげなんだなと思いつつ、物語を聞きました。

小久保 汐梨

四 おわりに

この原稿を書くにあたり、乙房小の教育は地域に支えられていることを改めて感じた。学校内部を地域に知らせる意味の「開かれた学校」ではなく、地域を拓く児童の育成をめざす「開かれた学校」にしなければいけない。学校運営協議会をはじめ、地域の組織と連携しながら、地域と学校がともに教育活動を実

践できる学校づくりを行っていきたい。



菓子野小学校だより

校長 後藤 薫

一 はじめに

今日も元気な子ども達の「おはようございます。」の声で一日が始まります。平成二十七年度も学校教育目標「心も体も元気よく、自ら学ぶ子どもの育成」を目指し、取り組んできました。

本校では、「基礎学力の向上」「豊かな心の育成」「健康安全教育の推進」「ふるさと学習の推進」を柱として教育活動を進めています。この教育活動を豊かに展開するためには、子ども達と教材との出会いが必要となります。その一つとして、地域の教育資源や人材の活用を積極的に行っています。様々な「も・こと・人」との出会い・ふれあいから、直接「見て・聞いて・考える」体験を通して学ぶことが、子ども達の大きな力となります。

また、授業だけではなく朝の「読み聞かせ」活動や登下校の「安全ボランティア」等をはじめ、地域の方々、保護者、P

TAのOB会、学校運営協議会、庄内地区まちづくり協議会、関係機関等、多くの御支援をいただいています。

地域の皆様とお話をする度に、子ども達や学校、地域のことを見守ってくださっているその想いを強く感じています。

今回は、地域の素材・人材を活用した、本校の「ふるさと学習」を中心に紹介します。

二 ふるさと教育の実践

● 地域学習の推進

総合的な学習の時間の「ふるさと学習」では、各学年テーマをもって学習しています。

三学年 「菓子野の行事・自然」

四学年 「菓子野の伝統芸能・福祉」

五学年 「菓子野の産業・環境」

六学年 「菓子野の歴史・未来」

「自然・環境」の学習では、地域のごみ拾いをしたり、市クリーンセンターの見学でごみの分別について学んだりして、地域をきれいにしようとする意識が高まりました。朝のボランティア活動でも進んで校庭や道路を掃く姿が見られます。



高齢者施設訪問



車いす体験



アイマスク体験

「福祉」では高齢者施設訪問や車いす・アイマスク体験をすることができました。この交流や体験を通して、子どもたちは、高齢者の方々や障がいのある方々について正しく理解し、相手を思いやる気持ちやお手伝いをする方法を学んでいます。さらに、施設職員の方々、社会福祉協議会や地域包括支援センターの方々から話を聞いたり、働く姿を見たりすることで、「キャリア教育」にもつながってきます。



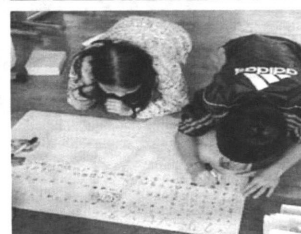
クリーンセンター見学



地域のごみ拾い



しっかり見学し、話を聞いていました



後日、見学したことをまとめました

本年度も庄内地区まちづくり協議会、庄内の昔を語る会、関之尾むかえびとの会の御協力のもと、校区や庄内地区の「歴史」をたどる活動を行うことができました。三原叢五先生の足跡をたどり、菓子野小学校の歴史を学んだり、前田用水路の開発に生涯をかけた「坂元源兵衛物語」や地域に伝承される「お雪さん物語」の紙芝居を見たり、用水路を見学したりしながらふるさとを知り、子ども達のふるさとを愛する心が育っています。

地域の「伝統芸能」を通して、地域の歴史を知り、地域の方々と関わり、継承している活動もあります。校区内にはいくつか伝統芸能がありますが、学校では、三・四年生が今屋地区の「俵踊り」を継承しています。毎年、運動会前には合計六回にわたり、保存会の皆さんが指導してくださっています。前年度経験済みの四年生が三年生をリードし、練習に励みました。

運動会当日は、保存会の皆さんの唄・伴奏で、演技し、多くの拍手をいただきました。一生懸命踊る子ども達の姿が誇らしく思えました。

また、庄内地区ふるさと祭りでも発表しています。

他に、千草地区「奴踊り」、宮島地区「子ども太鼓」等があります。学校の教育活動の中ではありませんが、各地で継承に取り組み、子ども達が六月灯や十五夜・敬老会



保存会の方々との練習



運動会で披露する3・4年生



庄内ふるさと祭り

等、各地域の行事で披露しています。

○ 学校支援ボランティア等による活動

・ 水泳指導（講師・本校卒業生のインストラクター）

・ 「ようこそ卒業生」（講師・本校卒業生大学准教授）

・ 読み聞かせ（ひまわりグループによる本の読み聞かせ）

・ 避難訓練（消防団による講話・放水・消防車の見学）

・ そばづくり・地域の人の仕事について講話

（そよかぜグループ）

・ 門松づくり・運動会準備等（PTAOB会）

・ 野菜・いも栽培用畑や苗の協力等（地域の方）

○ この他、夏季休業中の庄内中学生訪問（六年生への話）

や菓子野保育園児との交流等

三 おわりに

創立六十五年目も残りわずかとなりました。全職員で「目の前の子ども達に真剣に向かい合う」毎日です。これからも、温かい地域に支えられていることに感謝の気持ちをもって、「菓子野小ならではの教育」を進め、「たくましく将来を生き抜いていく菓子野っ子」を育てていきます。

庄内小学校五年生遠足感想文

史せきめぐり

瀬戸口 陽 和

五月二十二日に遠足で史せきめぐりをしました。

学校にある、お軍神に行きました。私がびっくりしたことは、イチイガシは四二〇さいという事と、高さは二六mあるという事です。私達が生まれてくるずっと昔からあるので、私はとてもすごいなあと思いました。

次は、釣こういん跡に行きました。初めて知った事は、昔はお寺があった事と、お寺は明治の初めにこわされたのと、一五〇年いじょう前におはかが建てられたことです。私は、昔はお寺があったのも、お寺は明治の初めにこわされたのも全然知りませんでした。私は、一度お寺を見てみたかったです。釣こう跡の歴史を知りました。

もちなが邸石垣では、庄内には、石垣の家が多いという事を知って私は、そうなんだなあと思いました。石垣は、一二〇年近くあると知ってとてもびっくりしました。

次は、願心寺に行きました。最初に知った事は、お寺の門の

事を山門という事です。願心寺には、何回も行った事があるけれど、お寺の門の事を、山門という事は知りませんでした。後、九〇年以上前に願心寺が建てられたという事です。私は、願心寺は、とてもきれいで九〇年以上前に、建てられたという事に、びっくりしました。

すわ神社に行きました。すわ神社は六五〇年前に建てられました。階だんは、上がっても、おりても九二だんという事が分かりました。私は、九二だん階だんがあるとは全然知らなくて、数えた事もあります。階だんの数を今度は、お母さん達にしつ問したいと思います。

その次に、とよはた神社に行きました。地輪、水輪、火輪、風輪、空輪といろいろあつたけど、全部、輪がついていました。私は、全部輪がついていてびっくりしました。

ぼくの大切なたからもの庄内

中 村 ひろき

五月二十二日のよくはれた日に山下さん、七牟礼さん、朝倉さんが、歴史のことをとてもわかりやすく教えて下さいました。

ぼくたち庄内小学校の正門のじゅれい四〇〇年のイチイガシの場所にあるお軍神に行きました。お軍神では、三島みちつね

という人が出てきました。この人は、庄内の町をにぎやかにした人だということが分かりました。

お軍神の下にあなのあいた石やいろいろな石がありました。この石は、せきのおの滝の石をもってきていることが分かりました。

釣こう院跡にも行きました。ぼくたちは一度行ったことがありませんでした。でもくわしくは知らなかったので、とてもわくわくしました。お寺だったことや、五代目のもちひさという人が安永城（今の城山）を作ったこともどれもこれも知りませんでした。

そしてもちなが邸石段に行きました。ぼくは、この石垣が歴史があることはしっていました。とくながちようたろうさんがこの石垣を作ったのと願心寺の石垣を作ったことは、とてもすごいなあと思いました。

すわ神社では、かまが人にはいったことを聞いて、へえと思いました。

とよはた神社は、石が積まれていました。これは、下から地輪、水輪、火輪、風輪、空輪という名前がありました。

最後に南洲神社に行きました。「西郷たかもり」という人がえどばくふというてきをたおしたことも知りました。

僕はこの庄内を好きになりました。

歴史がたくさんの庄内

得能 千歌

わたしは、たくさんの歴史のある場所に行き、すごいと思っただことや、初めて知ったことがたくさんあります。

お軍神には、庄内を良くしようとした人や、都城の空しゅうのことがかいてありました。釣こう院に行きました。そこには、今のおほかの作りとにいて、石などで囲んでありました。そのおほかは、とても大切なもので、形がちがう理由は分からないが、時代がちがうからかなと思いました。小さいものや、大きいものとさまざまでした。そして庄内の歴史の共通点は、昔からある建物が多く、いろいろなくふうがされているところです。石がきにもくふうがあり、石がきには小さなものだけでなく大きいのもいれて、じょうぶに作っていたので何年もじょうぶにたっているのです。すごいと思いました。いしがきが出来るまでの期間は明治四十四年六月から四十五年二月と聞いて、思っていたよりも短かったので、こんなに大きいものを作るなんてすごいと思いました。

諏訪神社の、近くの家では、四百年前中国の人が住んでいた

と聞いて仲が良かったのかなと思いました。神社の守り神は、「かま」「刀」「鏡」と変わっていることを知ってふしぎだなとおもいました。

こういうふうな人たちが庄内を良くしていつてくれたおかげで、今があるんだと思いきやしいと思います。そしてわたしたちに、うけついでくれる人たちがいるので、わたしも、たくさんの人にうけつぎたいです。

そして、ほかの地いきの人たちにも、庄内のことを知ってもらいたいです。

大好きな庄内

段 遥南

遠足で庄内史せきめぐりをしました。テレビのカメラマンと新聞記者もいました。

初めに、「お軍神」がある庄内小学校正門前に行きました。岩には、日本とロシアの戦争をした人の名前や、明治に庄内を良くしようとした人の名前などが書かれていました。庄内は空しゅうがあり、学校は焼け、東からの風で家は七十二けん焼けて、また八月六日空しゅうで重しゅうを負った人もいたということです。その人達は、とてもこわかったと思います。想像す

るだけで、庄内に住んでいた人はくるしかったと思うからです。次にちようこう院あとに行きました。どれも同じような作りでできていました。約百五十年いじよう前にできたもので、とても大事な場所だと言っていました。

その他にも六つの所に行きました。特に、わたしの家の近くにあるすわ神社は、すぐく歴史ある神社だと初めて知りました。家の近くにあるのでよく覚えておこうと思います。

わたしは、山下さん、七牟礼さん、朝倉さんはとてもいろんなことを知っていてすごいと思いました。

わたしは、新聞記者に感想を聞かれました。とても良い勉強になったことを伝えました。

この遠足は、庄内の歴史を学ぶとても良い遠足になりました。この「庄内」という歴史ある場所で育つてよかったです。

初めてしつた庄内の歴史

今 田朋花

わたしは、春の遠足で、庄内の歴史を学びました。わたしは、庄内の歴史をいっばいしりたいと思いました。

初めに、庄内小学校のお軍神に行きました。そこにある大きないちがしは、今から約四〇〇年もたっているとお話を聞き

て、わたしは、「お母さんやおばあちゃんが小さいころもずっと立っている、とても大切ないちいがしなんだなあ」と思いました。山下さんや、七牟礼さん、朝倉さんたちが、とっても分りやすい説明をしてくれたので、とてもよく理かいることができました。

そのほか、願心寺に行ったりすることができました。庄内には何かしよも、歴史があることがわかりました。わたしは、「庄内は、歴史あふれる街なんだなあ」と思いました、わたしは、とっても庄内の町が大好きになりました。とても歴史を学べる遠足になってよかったです。わたしは、こんなに楽しい遠足になったのも、山下さん、七牟礼さん、朝倉さんたちのおかげで、楽しく、歴史を学べる遠足になって、よかったです。

わたしは、庄内ですごせてとても幸せだなあとわかりました。家族の人にも庄内を好きになってほしいです。

庄内めぐり

金曜日、遠足で、庄内めぐりがありました。

山下先生や七牟礼先生や朝倉先生がきて、庄内めぐりの昔や歴史をおしえてくれました。

降旗竜大

さいしよに、庄内小のいちいがしのちかくにある石になにかいてあるとおもっていましたが、山下先生がおしえてくれました。

「これは、百五十年前せんそうでなくなったんだよ」とおしえてくれてぼくは、びっくりしました。

ぼくが「なぜせんそうでなくなつてここにかかれていますか。」と山下先生にきくと、「せんそうではくだんがおとされ、どこもかじでやけてしまったの。そのかじがおさまるとまわりにはなにもなくて、わたしが家にかえる時、はだしだったから、まだじめんがあつかったの」とぼくは、そのことをきいて、おどろきました。

ぼくは、「せんそうで、なくなつたなんてかなしいな」といいました。

次に、けんじゅうにはいつているたまのかたちの石がありました。ぼくは、「なんでけんじゅうにはいつているたまのかたちなんですか。」といつたら、山下先生が、「せんそうでなくなつた人の名がかかれていますよ。」ときいて、ぼくは、びっくりしました。せんそうでしぬ人は、かわいそうだと思います。

なんしゅうじんしゃにいくと、七牟礼先生が「かごしまのしるやまで昔、さいごうたかもりがせつぷくしてなくなりました。

そのほねがしろやまにあつて、そのほねをわたくしたちにくださいといつて、しろやまからなんしゅうじんしゃにうつして、それからなんしゅうじんしゃにさいごうたかもりのほねがあります。」とぼくは、きくと、おどろいてなかをみるとほんとうにあつてすごいなとおもいました。

次にすわじんしゃにいきました。すわじんしゃのかいだんは、九十二だんもあつてすごいなあと思いました。

ぼくは、庄内のことがすきになりました。また、あつたときは、いっぱい教えてください。

わたしのじまんの庄内

神山綾夏

わたしは、春の遠足で、庄内の歴史についてしりました。

わたしが、かよっている庄内小学校のお軍神を説明してもらいました。説明の時、しんけんに山下先生のお話を聞いていると、せん争で、庄内小学校や七十二けんの家がやけた。というお話がありました。わたしは、小さい声で思わず、「え。」といいました。けれど、ちゃんと学校にかよえているので心がほっとしました。

わたしたちは、ほかにも、釣こう院あとにいきました。わた

しは、釣こう院あとには、一度だけいったことがあります。けれど、釣こう院あとの歴史はしらなくて、釣こう院あとのおはかの部分一つだけ、木が石にまいていのがあつて、びっくりしました。

でも、もつとびっくりしたことが、もちなが邸で、石垣の場所は百二十年たつていたのですごいな。と思いました。でも、石がきの石は、人が手さ業で作つて何年かかったのか予想をたてました。わたしの予想は、一年半ぐらい。という予想でしたが、九ヶ月で作つたのがびっくりしました。でも、予想をたてるのは、いいことなので、たててよかったです。

「やっぱりわたしのじまんの庄内だ」と思いました。

ぼくの大好きな庄内町

花房秀馬

金曜日に遠足でした。庄内の歴史の神社に行きました。ぼくは、一番心に残つた所はもちながていの石がきです。小さい石、長い石がこうごにつんでありました。石がきがくずれにくくするためとして工夫したなあと思いました。庄内小のお軍神という所に三島みちつねさんのせきひがありました。庄内の歴史に残つた人だなあと思いました。

一つだけ鉄ぼうのような形のせきひがありました。

ぼくは、すわ神社でびっくりする話を聞きました。中にあったカマガ刀に変わって、次にかがみに変わったという話を聞きました。中には「ヤマトタケルのみこと」とヤマタノオロチの絵がありました。

ちょうどこう院で二代目、四代目、五代目、七代目おはかがありました。石のさくのようなもので囲まれていました。大切に守っているなあと思いました。

豊幡神社にもおはかがありました。五輪塔で、地輪、水輪、火輪、風輪、空輪というのがありました。

最後に南洲神社の中に「さいごうたかもり」さんの写真がありました。その上に城山がありました。昔は安なが城という城があると初めて知りました。城山は四つの城からできていると初めて知りました。

庄内には歴史のある場所、神社が多いなあと思いました。ぼくは、庄内という所が好きになりました。庄内に生まれてよかったです。

遠足で庄内めぐり

有馬 太陽

金曜日に遠足で庄内の歴史を学びに行きました。さいしょは分からないことばかりでした。

さいしょに行った場所はお軍神に行きました。戦争を続けたために作ったことを初めて知りました。お軍神の石や岩は、関の尾から持ってきたそうです。ぼくは関の尾からどうやって持ってきたんだろうと思いました。とつてもふしぎで山下さんがお話している時も聞きながら考えていました。考えているうちに次の場所に行きました。

次は、釣こう院跡に行きました。ぼくはここにきて七牟礼さんが「ここは昔神社があつたんですよ。」と言ったのを聞いて、ぼくはびっくりしました。ここに神社があつたんだと思って、またふしぎなことが増えてきました。おはかがいっぱいあったのでいろいろな人が戦争や病気で死んでしまつたりいなくなつた人は、すつごくかわいそうだなと思いました。

次の場所は、もちなが邸石垣に行きました。百二十年前の明治三十四年に作られたということです。ぼくはもつと神社のことをしりたいなと思いました。

次は、願心寺に行きました。ぼくは、ようち園生にもどつた

ように思いながら行きました。ぼくがまだ小さいころ、よくここにきていました。入口の所にはシーサーみたいなのがあったり、象の形をした物もありました。初めて知ったことは、入口にりゅうのせきぞうのようなのがあったのを初めて知りました。

いろいろな神社を見て学んでとっても楽しかったです。僕は、大人になっても庄内を愛し続けます。

庄内のすばらしい歴史

新田 菜央

わたしは、庄内の史せきめぐりをしました。

お軍神やもちなが邸石垣、南洲神社などいろいろなところに行きました。

もちなが邸石垣は、百二十年前に手作業で作りました。手作業で作りましたのに、九カ月という短期間で完成したのです。すごいなあと思いました。石をこうごに積みあげる工夫もしてありました。

わたしは、願心寺やすわ神社、とよはた神社に何度か行ったことがあるのに、初めて知ったことがたくさんありました。庄内は、正直、古い町なみだなあと思っていました。それは大

昔からある、歴史・伝統なんだと知り、今でもしつかりと残されています。

三人の方々に、庄内のいろいろなことを教えてもらって、また庄内が好きになりました。MRTの放送でも、わたしたちの学んだことが伝えられていました。わたしたち以外の庄内の人達も庄内の歴史・伝統を知ってもらいたいです。そして、他の地域にも庄内のことが広まってほしいです。そのために、わたしたちがこの経験を生かしたいと思います。この庄内というすばらしいところで生まれ育って本当に良かったです。

庄内の歴史を学ぼう

鵜島 羽那

遠足で庄内の歴史をたくさん知りました。

最初に校門の横にあるお軍神に行きました。わたしは、昔は戦争が多く、食べ物がない生活をしていたなんてかわいそうだなあと思いました。そして、わたしが一番びっくりしたことは、家が七十二けん焼けたことです。わたしは、こんなにたくさん自然がある庄内が戦争にあうのは信じられません。でも戦争でたまたかかった人たちは、人を助ける心がやさしい人だと思いました。

次に釣こう院跡に行きました。そこには百五十年以上前のお

はかがありました。おはかほどれも同じような形でした。でもよく見ると少しちがう所がたくさんありました。形がちがうことも勉強になりました。

次に、もちなが邸石垣に行きました。そこには、とても高い石垣がありました。その石はせきのおの石だと初めて知りました。石垣は、たったの九カ月で作ったのでびっくりしました。石のつみかたで勉強になったことがありました。それは、小さい石だけだと弱いので大きい石も使うと、強くなるということ

です。
次に願心寺に行きました。わたしは、何回も来たことがあるけど、初めて知ったことがあります。それは、門にまよけのぞう、花、シーサーがあることです。

南洲神社では、さいごうたかもりさんのことについて知りませんでした。わたしは、初めて知ったことがあります。それは、庄内以外にも城山があることです。

わたしは、初めて知ったことがたくさんありました。その中でも一番気になったことがあります。それは、もちなが邸石垣です。石をせきのおからどうやって持ってきたか気になったからです。わたしは庄内のことをもっと知りたいです。

自まんしたくなる庄内の町

伊地知 愛結

遠足の時はありがとうございました。山下さん、七牟礼さん、そして朝倉さん。みなさんのおかげで、わたしたちがふつうにとう校している所にも、いっぱい名所があると知りました。

わたしは一人ずつに感しゃを申し挙げます。

まずは、山下さん。山下さんは、城山公園、もちなが邸石垣、お軍神などを教えてくださり、庄内が好きになりました。とてもきょう味を持ったのがお軍神です。わたしは像の形がちがうことに気付きませんでした。でも、山下さんが形や意味まで教えてくれたので、とても分かりやすく理かいできました。

七牟礼さんは、願心寺や南洲神社を教えてください、わかりやすかったです。とくに分かりやすく聞いたのは、南洲神社です。わたしは、さいごうたかもりのことをくわしく教えてくださいました。で、分りやすく書けました。

最後は朝倉さん。朝倉さんは、庄内町めぐりを教えてくださいました。とてもたのしい遠足になりました。

みなさん遠足の時はとても楽しい一日になりました。

庄内史跡めぐり

古田 深 結

五月二十二日金曜日に春の遠足で、庄内史跡めぐりをしました。

最初に行ったお軍神では戦争での話をしました。その中で一番頭に残っているのは、てっぼうの玉のような形をした石ひです。周りには、戦争でゆうかなん人々の名前がぎざまれている。その上に、いくさの神様がまつつてあることや、せきのおの石をとっていたことや、庄内がくうしゅうにあつた時、昼に小学校が焼けたことを知って、少しびっくりしました。それに、なんで戦争なんかはじまったんだと思いました。

次に、釣こう院跡を見に行きました。そこには昔、お寺があつたけど明治時代、日本中のお寺やおはかがこわされたことを知りました。そこは、七代目のりようしゅが亡くなり、なぐさめるためのお寺だったことも知りました。今は、おはかだけがありません。それは、すけひささんがお父さんにうたがいをかけられせつぶくしたことを知り、私は親だけはすけひささんを信じてあげてほしかったと思いました。

次にもちなが邸石垣に行きました。できてから百十五年たっていることを知りました。よくこわれないなあと思っていたら、

長い石と短い石が入れてあり工夫していました。昔の人々は頭がいいなと思いました。

その後、学問の神様にお参りしました。しよどうの先生でもあつたんだと知って、すごいと思いました。

私はてん校してきたばかりだけど、庄内の良さが分かりました。それに、昔の人のこと、戦争のひさんさも知りました。そこで庄内を大好きになりました。

今回の春の遠足がみなさんといっしょで、本当によかったです。ありがとうございました。

編集部注

平成二十六年から庄内小学校五年生の遠足は、地域の史跡や寺社を歩いて回っています。今回は平成二十七年五月二十二日に実施しました。遠足の目的は以下の通りです。

① 庄内地区の史跡や石垣群を巡り、ふるさとのよ



さを見直す。

- ② 交通安全や集団行動のきまりを守り、友達に迷惑をかけずに安全に行動する。

庄内地区まちづくり協議会では教育文化活動部会が協力し、史跡等の案内および説明を同部会所属の「庄内の昔を語る会」が行いました。コースは下記の通りです。

- ① 八時三〇分 まち協関係者庄内小集合
② 八時四五分 児童集合あいさつ他
③ 八時五〇分 お軍神説明

(三島通庸遺徳の碑、三原叢五石碑など)

- ④ 九時一〇分 釣こう院跡
⑤ 九時三〇分 もちなが邸石垣
⑥ 九時五〇分 願心寺山門、本堂、書院
⑦ 一〇時三〇分 菅原神社
⑧ 一〇時四〇分 諏訪神社
⑨ 十一時二〇分 豊幡神社・山久院跡
⑩ 十一時五十分 地頭仮屋跡經由南洲神社
⑪ 十二時 城山(安永城跡)到着

また、同じく庄内地区まちづくり協議会が主催し、平成二十

七年八月六日(木)に庄内小、乙房小、菓子野小、庄内中教職員二十二名を対象として地区内の関之尾滝および史跡・寺社・石垣群を巡る研修会を開催しました。

当日は庄内小学校に集合し、お軍神について「庄内の昔を語る会」の山下会長、七牟礼さんが説明しました。三島通庸遺徳の碑や、三原叢五についての話があり、庄内空襲の碑の説明では、たまたま今日が庄内空襲(昭和二十年八月六日)から七十年目の日だということにびっくりしました。

その後、マイクロバスで関之尾滝に移動、「関之尾むかえびとの会」の花原会長、馬方さんのガイドで滝の詳しい説明や南前用水路、北前用水路、前田用水路などの説明を聞き、ました。今日は水量が多く、甌穴は水面下に沈んでおり残念でしたが滝の迫力とマインスイオンを楽しみました。

その後乙房神社、中央権現、諏訪神社と回り、願心寺では山門、本堂、書院、



周りの石垣などを見学しました。豊幡神社・山久院跡の説明を最後に庄内小に到着解散しました。

庄内中の河野校長は「三島通庸について福島県令時代などの住民弾圧のマイナスイメージが大きかったが、庄内のまちづくりに大きな役割を果たしたことを知って良かった。参加された先生方には、今日の研修を今後の児童生徒たちの郷土についての学習に生かして欲しい」と話されました。

庄内中学校 一年生

地域巡見感想文

濱崎 智帆

先日地域巡見学習ではお忙しい中、私たちのため分かりやすくていねいな説明をしてくださり、まことにありがとうございます。中でも特に印象に残ったことが三つあります。

一つ目は「安永城跡」です。小学校が近く普通に登って遊んでいましたが、実は当地が北郷氏にとって当初から重要な拠点の一つであるなど、すごいところなんだなあと感心しました。

二つ目は「平田かくれ念仏洞」です。信者が藩の役人の目を逃れ、せまい洞窟の中で念仏をとんでいたことを初めて知りました。禁止され決して安全ではないのにその行動に感心しました。

三つ目は「田の神様（タノカンサー）」です。庄内地区に十数体も確認されており、その形もいろいろなタイプがあり見てみたいなあと思いました。

このように、今回の地域巡見は自分が住んでいる地域でも知らないことがたくさんあり、知らなかったことを詳しく知れる良い機会となりました。これからも今回のことをもっと深く、

それ以外のことを調べ、理解し、語りついでいきたいと思えます。ありがとうございます。

満行 眞那香

先日の地域巡見学習では、お忙しい中私たちのためにいろいろな説明をしてくださり、まことにありがとうございます。さまざまな場所をまわった中で特に心に残っている所が四つあります。

一つ目は「諏訪神社」です。庄内中からとても近い所だけけど初めて行きました。とても長い階段がありびっくりしました。今回は時間がなく登ることができませんでしたが、いつか登ってみたいと思いました。

二つ目は「山久院跡」です。五輪塔といわれるものの、下から順に名前がついているのがおもしろいと思いました。

三つ目は「田の神様（タノカンサー）」についてです。私は乙房に住んでいるので何度も行っただけですが、オットイ（盗み）の習慣があったことなどの歴史は知りませんでした。

四つ目は「願心寺」についてです。初めて願心寺の中に入りとても感動しました。今回の地域巡見は知らないことばかりだったことについて、たくさんことを知れました。いつも普

通に住んでいる庄内地区にこんなすばらしい歴史があり、庄内地区に住んでいる人としてとてもうれしかったです。本当にありがとうございます。

和田 伸天

先日の地域巡見では、お忙しい中私たちのために丁寧な説明をしてくださり、まことにありがとうございます。中でも特に印象に残ったことが三つあります。

一つ目は「平田かくれ念仏洞」です。信者が藩の役人の目を逃れて、小さな洞窟でよく念仏をとんでいたことを初めて知りました。中にはいつてみたかったけど、入れなくて少し残念だなあと思いました。

二つ目は「諏訪神社」です。「鎌」が御神体であることを初めて知りました。古くは狩猟の神、のちに農耕神、武神とされて信仰されていて、おもしろいなあと思いました。

三つ目は「宮島の石碑」です。牛馬が繁殖することを願って建てられたことを初めて知りました。都城島津家当主二十五代久静は藩主の名代として江戸に上がったり、京都警備のため上京したりして、いろいろなことをしてすごいなあと思いました。でも三十一歳の時、京都伏見で麻疹にかかり、若いのに

亡くなってかわいそうだなと思いました。

今回の地域巡見で詳しく知る良い機会となりました。これからも今回の史跡以外について調べ、庄内の良さについて理解し語りついでいきたいと思います。ありがとうございます。

東 大夢

先日の地域巡見学習ではお忙しい中、そして寒い中私たちのために地域のことを教えてくださりまことにありがとうございます。中でも特に印象に残ったことは三つあります。

一つ目は「平田かくれ念仏洞跡」です。中はくわしくは見ることはできませんでしたが、信者が藩の役人の目を逃れて、せまい洞窟の中で念仏をとんでいたことを知りました。

二つ目、「田の神様（カンサー）」についてです。市内に百七十体もあり、種類もいろいろあることを初めて知りました。また盗みなどの習慣もあったと聞きとても印象に残りました。

三つ目は「乙房神社」です。ほくは乙房小学校で帰ったり遊んだりする時は良く通っており、こんなにすごいと実感したのは初めてでした。六月灯の時に雨が降らないのは、この神社のおかげではないかと思いました。

今回の地域巡見学習ではいろいろな庄内のすばらしさに気づ

きました。このすばらしい庄内で生きていけることをほこりに思いたいです。

新村 平良

先日の地域巡見学習ではお忙しい中、私たちのためにこのような企画を組んでくれたり、ていねいな説明をして下さり、まことにありがとうございます。その地域巡見学習の中でも特に心に残ったことが二つあります。

その一つ目は「田の神様」のことです。市内に百七十体もあり種類もいろいろあることを初めて知りました。また、オットイの習慣があったと聞いておもしろいなーと思いました。

二つ目は「平田かくれ念仏洞跡」です。ほくはあそこの近くを自転車です毎日通っていたけど、こんなにも歴史あるものだとは思っていませんでした。それは信者が役人の目を逃れて、せまい洞窟の中で念仏をとんでいたことです。このように今回の地域巡見学習では自分たちが生活している庄内地区のことについて学んだいい機会になりました。

清水 佳也基

先日の地域巡見学習ではお忙しい中、私たちのためにいね

いな説明をしてくださり、まことにありがとうございます。中でも印象に残ったことが二つあります。

一つ目は「平田かくれ念仏洞跡」です。平田かくれ念仏洞は通路の幅一・四メートル、高さ一・四メートル、延長六メートル、洞内は幅二・二メートル、奥行三メートル、高さ二メートルと、思っていたより大きかったです。いいなあと思いました。

二つ目は「田の神様（カンサー）」についてです。市内に百七十体もあり、種類もいろいろあることを知りびっくりしました。またオットイ（盗み）の習慣があったと聞き、おもしろいなあと思いました。

今回の地域巡見は自分たちが生活している庄内地域のことについて知る良い機会となりました。これからも今回の史跡以外について調べ、庄内の良さについて理解し、語りついでいきたいと思えます。ありがとうございます。

佐土平 涼 平

先日地域巡見学習ではお忙しい中、僕たちのためにととてもわかりやすい説明をしてくださりありがとうございます。とくにいんしょうに残ったことが二つあります。

一つ目は「田の神様」についてです。僕は市内に六十体ぐら

いあるかと思っていたけど、本当は百七十体もあると聞いてびっくりしました。たまにはかぞくで遊びに行く時に探してみたいと思いました。

二つ目は「平田かくれ念仏洞跡」です。信者が藩の役人の目を逃れて、せまいどうくつの中で念仏をとなえていたことを初めて知りました。命がけの行動に感動しました。僕だったらあんなことできないと思います。

このように今回の地域巡見は自分たちが生活している庄内地域のことについて、くわしく知る良い機会となりました。

小久保 敦 史

先日地域巡見学習では、お忙しい中大変お世話になりました。中でも特に印象に残ったことが三つあります。

一つ目は「平田かくれ念仏洞跡」です。信者がせまい洞窟の中いっしょうけんめい念仏をとなえていたということにおどろきました。そこまで信じていたんだなあと思いました。

二つ目は「お軍神」です。日露戦争がおわったときにつくられた石碑があることにもおどろきました。樹齢およそ五百年の木が二本もあることにもおどろきました。

三つ目は「諏訪神社」です。ぼくはあんなにたくさん階段

を上ったところに神社があったことにおどろきました。昔の人はおもしろいことをするんだなあと思いました。もともと歴史がきらいだったわけではありませんが、地域についてあまり興味がなかったもので、これからはもっと地域について調べたりしていきたいです。

上田那智

久保 虎太郎

先日の地域巡見学習ではお忙しい中、いろいろな説明をしてくださり、まことにありがとうございました。中でも特に印象に残ったことが二つあります。

一つ目は「お軍神」です。僕は庄内小学校出身なので、毎日見ていたけど、皆様が説明してくださったような歴史があるとは知りませんでした。庄内地区からもたくさんの人々が戦争に行っていたことを知って、とても悲しい気持ちになりました。

二つ目は「平田かくれ念仏洞跡」です。台風でくずれてしまっていたのは、とても残念でした。せまい洞窟の中で念仏をとこなえていたことは初めて知りました。それだけ浄土真宗を信じていたんだなあと思いました。

今回の巡見は、庄内地域のことを知る良い機会となりました。これからは僕たちが下の世代に語りついでいきたいと思

ます。

先日の地域巡見学習ではお忙しい中、私たちのためにいいに分かりやすい説明をしてくださり、まことにありがとうございました。僕がいろいろ説明してくださった中で印象に残ったところは三つあります。

一つ目は「諏訪神社」です。ずっと階段を登って行って、九十二段というすごく高いところまで続いているところが「何年かけて作ったんだろう」と思いました。

二つ目は「平田かくれ念仏洞跡」です。信者が洞窟の中で念仏をとなえることは、すごくかこくでつらそうだなあと思いましたが、

三つ目は「願心寺」です。僕は清涼幼稚園を卒園したので、願心寺には何回も行っているけど、改めて願心寺はものすごく前からあった歴史と、窓を洋風にしておしゃれにしているところが良いところが庄内にはあるのだなあと思いました。

今回の地域巡見は、自分たちが生活している庄内地域のことについて詳しく知る良い機会となりました。

先日の地域巡見学習では、お忙しい中大変お世話になりました。中でも特に印象に残ったことが三つあります。

一つ目は「お軍神」です。庄内小学校の校門脇の小広場があり、日露戦役記念碑や庄内空襲の碑が建てられている横には二本の巨木があつて、その木が樹齢五百年ということに驚きました。

二つ目は「平田かくれ念仏洞跡」です。庄内地区に住んでいた浄土真宗の信者たちが、藩の役人の目を逃れてびくびく恐れながらも、洞窟の中で一生懸命念仏をとんでいたことを初めて知りました。見つかったら殺されるかも知れないというのに、その命がけの行動に感動しました。

三つ目は「田の神様（タノカンサー）」についてです。市内で百七十体も確認されており、その形も神宮型、農民型、僧侶型とたくさんあることに驚きました。乙房の田の神様は農民型で、右手にしゃもじ、左手に茶碗をもっているのがおもしろいなあと思いました。

今回の地域巡見で庄内地区の大切さを学びました。これを今後生かしていこうと思います。

先日の地域巡見学習ではお忙しい中ありがとうございます。それに分かりやすくていねいな説明をしてくれたのでとても聞きやすかったです。その中でも特に印象深く残ったことが三つあります。

一つ目は「お軍神」です。ぼくは庄内小学校で、とても近くに「お軍神」がありました。だけでもそこまで古くから建てられているとは思いませんでした。日露戦役記念碑、日露戦役従軍者の刻名碑と説明された時すごいなと思いました。

二つ目は願心寺です。ぼくは最初「願心寺に史跡なんてあるのかな？」と思っていました。実はしょっちゅう見ている本堂はケヤキでできていると聞いてびっくりしました。それに寺院の外周は石垣でかためられていることも聞いてびっくりしました。

三つ目は「タノカンサー」です。ぼくが聞いて驚いたのは、田の神様は市内に百七十体もあると聞いたことです。それに種類がいろいろあるということも聞きました。地域巡見に参加しなくてもためになりました。庄内の知らないことがたくさんありました。ぼくはもっと詳しく調べてみたいなと思いました。庄内の知らないことを知れて良かったです。

小久保 直 音

先日の地域巡見学習では、ぼくたちのために貴重な時間を作ってくださって、まことにありがとうございます。どれもぼくが知らないことばかりで、すごくおもしろかったです。ぼくの心にのこったのが三つあります。

一つ目は「乙房神社の田の神様」です。実はあそこのすぐ近くにぼくの家があり、小さいころから何度も行ったことがあるけど、ぼくの知らない歴史があつてびっくりしました。

二つ目は「平田かくれ念仏洞跡」です。最初は「どこに念仏洞があるんだろう」と思ったけど、説明を聞いて感動しました。中に入らなかったのがざんねんです。(笑)

三つ目は「諏訪神社」です。あそこはトレーニングでたまに行きますが、狩猟の神や武神と聞いてかっこいいと思いました。ぼくは庄内の歴史についてもっと知りたいと思いました。とてもためになりました。

吉田 早 希

先日の地域巡見学習ではお忙しい中、私たちに庄内・菓子野・乙房地区といろんなことを教えてもらい、大変お世話になりました。中でも特に印象に残ったことが三つあります。

一つ目は諏訪神社です。家がとても近くなのにもかかわらず、何も知りませんでした。北郷資忠が領内の氏神として最初に創建したということや、何回か階段ダッシュなど行っているのに階段が九十二段あるということも知りませんでした。

二つ目はお軍神です。樹齢五百年という長い年月をかけて育った樹と、戦争などの多数の碑が近くにあることにびっくりしました。

三つ目は安永城跡・仮屋跡のところでした。前の家の近くには都城城跡というものが残っていました。でも城はもう残っていませんでした。安永城跡は戦乱の時代が過ぎたころに取り壊された聞き、もう少し詳しく知りたいなと思いました。また機会があれば自分でも調べてみたいと思います。

花原 佳 凜

先日の地域巡見学習ではお忙しい中大変お世話になりました。私は中でも特に印象に残ったことが三つあります。

一つ目は平田かくれ念仏洞跡です。山の中や洞穴などにかくれて信仰していたのがすごいなと思いました。山田と高城などにもあつてものすごく中が広いことにおどろきました。

二つ目は願心寺です。六年かけて総ケヤキ造りで作られたの

がすごいと思いました。本堂が西洋の感じを取り入れていて、いつも行くけどそんな風に見たことがなかったので、改めてすごいなと思いました。それに国の登録有形文化財に指定されていて、私が住むまちにもそういう指定されている場所があるのにびっくりしました。

三つ目は安永城跡です。とても高い場所にあつてびっくりしました。でも安永城が残っていなかったのが残念でした。今回の地域巡見ではまだまだ知らない史跡や古い建物について、たくさんのことを知るいい機会になりました。ほかの知らない場所なども調べたいです。

山口 剛志

先日の地域巡見学習では、お忙しい中大変お世話になりました。中でも特に印象に残ったことが三つあります。

一つ目は「平田かくれ念仏洞跡」です。信者が藩の役人から逃れるために、近くに役人が来たら馬をはなしてみんなに知らせ、洞窟から逃れるということを聞いてびっくりしました。ほかにもせまい洞窟の中で念仏をとなえたということを知って感動しました。

二つ目は「田の神様」です。タノカンサーは庄内地区に十四

体もあり、その形は神官型、農民型、僧侶型といろいろあつて、すごいなと思いました。ほかの家も田んぼをしているので、田の神様に感謝をしようと思います。

三つ目は「願心寺」です。願心寺はケヤキで造っていて、とてもきれいでびっくりしました。登録文化財に指定されてすごいなと思いました。今回の地域巡見は自分たちが生活している庄内地域について知る良い機会になりました。これからも田の神様に感謝して田んぼをしていきたいです。

宮原 大雅

先日の地域巡見学習ではお忙しい中大変お世話になりました。中でも特に印象に残ったことが三つあります。

一つ目は「平田かくれ念仏洞跡」です。信者が山の中や洞穴などにかくれて信仰を守っていて、それを平田かくれ念仏洞として呼ばれていました。今は地震で入口がくずれて入れないけれど、庄内地区まちづくりの人の話を聞いたらとてもびっくりしました。

二つ目は「田の神様（タノカンサー）」です。とても近くで遊んだり身近にいるのに、その意味などを知りませんでした。でも先日の庄内地区まちづくりの皆様のおかげで知らなかった

ことも良く分かりました。

三つ目は「宮島の石碑」です。ぼくはYOU遊駅伝で二回ほど通ったりしているのに、石碑があるのをあんまり知りませんでした。でもまちづくりの皆様のおかげでとてもよく分かりました。このような場をつくっていただきありがとうございます。

山内 瑠菜

清水 萌絵子

先日の地域巡見学習ではお忙しい中、私たちのためにとでも丁寧な説明をしてくださりありがとうございます。先日の学習で特に心に残ったことが三つあります。

一つ目は平田かくれ念仏洞跡です。今は宗教宗派について全然考えたこともありませんでした。でも昔の人たちはつねに危険なのに、それでも念仏をとなえるという今では考えられないことに驚きました。

二つ目は宮島の石碑です。私は宮島地区で何度も来たことがあります。でも、ここが島津の中心となっていたことや、牛馬の繁殖を願ひ建てられたことを初めて知りました。

三つ目は諏訪神社です。来たのは初めてであんなに長い階段を登り、すごく疲れたことが印象的でした。このように地域巡

見学習は初めて知ることも多く、地元庄内地区を知るいい機会となりました。こんな素晴らしい史跡などの庄内の良さを語りついでいきたいです。

先日の地域巡見学習ではお忙しい中大変お世話になりました。中でも特に印象に残ったことが三つあります。

一つ目は「平田かくれ念仏洞跡」です。あんなにせまい穴の中で、かくれて浄土真宗を信仰していた人がいたにはおどろきました。台風で崩れてしまったらしいけど、中に入ってみたかったです。

二つ目は「諏訪神社」です。島津資忠が、着物の袖に入った「鎌」を神にしたのはなぜかなあと疑問に思いました。都城島津とはどんなものだったのか調べてみたいです。

三つ目は「願心寺」です。私は行ったことがなかったので、行けて良かったと思いました。中はとてもきれいで「総ケヤキ造り」というのにはびっくりしました。また機会があれば行ってみたいですね。今回の地域巡見では、自分が知らなかった庄内の歴史などを知れて良かったです。今回の学習で学んだことを、庄内のことをよく知らない人に教えられたらいいと思います。

先日の地域巡見学習では、私たちのためにわかりやすい説明をしてくださってありがとうございました。その中でも印象に残ったことが三つあります。

一つ目は「お軍神」です。三島通庸遺徳の碑や庄内空襲で亡くなった方々の名前などが記されていたり、そのうえ樹齢五百年と言われる二本のイチイガシもあり、とてもすごいなあと思いました。

二つ目は「平田かくれ念仏洞跡」です。信者が山の中や洞穴などにかくれて念仏をしていたことを初めて知りました。命がけで行っていたと知って、とても厳しかったなあと思いました。

三つ目は「願心寺」です。総ケヤキ造りでとてもすごいなあと思いました。登録有形文化財に認定されていたことを初めて知りました。願心寺の中に入っているいろいろなところを見てとてもきれいなあとと思いました。作法をくわしくは知らなかったのですが教えてくださり、ありがたかったです。

今回の地域巡見でたくさんさんの庄内の良さについて知ることができました。これからはこの良さを生かして、もっと庄内を良くしていきたいと思います。

先日の地域巡見学習ではお忙しい中、ぼくたちのためにわかりやすく説明をしてくださり本当にありがとうございました。その中でも一番印象に残ったことが三つあります。

一つ目は三島通庸遺徳の碑についてです。都城郷を上荘内・下荘内・梶山の三つに分割、上荘内と梶山の地頭となったことが分かりました。ぼくはもつとこの三島通庸遺徳の碑を調べてみたいと思いました。

二つ目は平田かくれ念仏洞跡についてです。一九九〇年（平成二年）台風で洞内が崩れ調査されたあとに埋められて通路の幅一・四m、高さ一・四m、延長六m、洞内は幅二・二m、奥行三m、高さ二mであったことがすごかったです。

三つ目は田の神様（タノカンサー）についてです。石に刻んで像を造っているのは鹿兒島藩領だけで約二千体あるといわれ、市内だけでも約百七十体も確認されていることが分かり、庄内地区には十四体もあることが分かりました。そんなきちょうなものがこの庄内地区にあるのはすごいと思いました。庄内の良さについてすごく分かったので、これからのことにつなげていこうと思います。

先日の地域巡見学習では、お忙しい中僕たちのために丁寧で分かりやすい説明をしてくださりまことにありがとうございます。中でも印象に残ったことが三つあります。

一つ目は「田の神様（タノカンサー）」です。庄内地区に十自体もあることがすごいいいと思いました。僕の家の敷地内にも田の神様が置いてあるから、何げなくすごい像なんだなどは思っていました。こんなにはこれる像だとは思っていないからびっくりしました。

二つ目は行っていませんが南洲神社です。話や資料を見て聞いて西郷隆盛を祭っているのを聞いて、すごいと思いました。できれば行きたかったが時間の問題で行けなかったため、時間があれば行きたいです。

三つ目は願心寺です。願心寺はすべてケヤキの木で造られていると聞いてびっくりしたし、くぎを使わない造り方をしていたので、これもすごいと思いました。さらに平成十六年に国の登録有形文化財に指定されたのもすごく貴重なお寺なんだなと思いました。この地域巡見でいろいろなことが学べ、庄内についての歴史を詳しく知る良い機会となりました。これからも庄内の歴史について調べ伝えていきたいと思っています。

先日の地域巡見学習ではお忙しい中大変お世話になりました。私はたくさんさんの史跡を学んだ上で特に心に残ったことが三つあります。

一つ目は「平田かくれ念仏洞跡」です。信者が役人の目を逃れるために、つりに行くふりをしていたということがおもしろいなあと思いました。それに洞窟の中で何時間も念仏を唱えるというにおどろきました。

二つ目は「諏訪神社」です。とても深い歴史があることが分かりました。それと階段が長かったのでそれが印象に残ったというのがあります。

三つ目は「安永城跡」です。小学生のときから何度も遊びに行っていたところだったので、あのような歴史があると知ったときはおどろきました。このように何も考えずに行っていた場所などにも、深い歴史があるということを知ることができてよかったです。これからは機会があれば自分で調べたりして庄内のことについてもっと知りたいなと思いました。

先日の地域巡見学習ではお忙しい中、私たちのために丁寧な

説明をして下さり誠にありがとうございました。僕が特に印象に残った事は三つあります。

一つ目は「安永城跡」です。僕は小学校の頃たくさん遊んだ城山が、室町時代に築造した城であることを初めて知りました。

二つ目は「平田かくれ念仏洞跡」です。僕はせまい洞窟の中で命をかけてでも念仏を唱えていたことを初めて知りました。そしてそれほど仏教が大切だという事におどろきがありました。

三つ目は「お軍神」です。小学校の所にあつた樹齢五百年のイチイガシの近くにあつたけど、興味がなかつたです。でも皆様の話を聞いて、すごい歴史があることを初めて知りました。十二年間も住んでいたこの庄内町はとてすごい歴史があるということがわかりました。今回の地域巡見はもつとこの町を知るととてもいい機会になつたと思います。

編集部注

庄内中学校一年生(六十二名)を対象にした地域巡見学習を平成二十七年十一月二十七日(金)午後で開催しました。庄内地区まちづくり協議会教育文化活動部会(舟津隆二部会長)が主催し、今年で五年目になります。自分たちの住む庄内には、

たくさんさんの歴史と文化があることに気づき、郷土に誇りを持つてくれることを期待して実施しているものです。

当日は、「庄内の昔を語る会」会員の方四名を講師にお願いしバス三台に分乗、地区内の史跡を回りました。(平田かくれ念仏洞跡、乙房神社(田のかんさあ)、宮島中央権現、諏訪神社、山久院跡、三島通庸遺徳の碑、安永城跡、南洲神社、願心寺)生徒たちは初めて知る史跡もあり、興味深い様子でした。



庄内地区まちづくり協議会

平成二十六年年度事業報告書

(平成二十六年四月一日から平成二十七年三月三十一日まで)

庄内地区まちづくり協議会 会長 釘 村 美千也

一・事業概要

平成二十五年より地区社教連から引き継ぎました三大イベントは、十月のスポ・レク大会が残念ながら台風十九号の影響により、やむなく中止になりましたが、庄内ふるさと祭り、庄内一周YOU遊駅伝大会は予定通り実施できました。特にふるさと祭りは新しい企画で実施し、例年になく多くの皆様にご参加いただき大盛況でした。駅伝大会は今回から区間賞を設けましたので、各区间で順位に関係なく選手の力走につながりました。

都城市より受託している城山公園整備事業、庄内川堤防草刈り事業、庄内中学校一年生を対象とした郷土学習事業や関之尾滝ライトアップ事業を継続事業として実施し、他にも各部会の事業や池田市長を講師にお迎えしての地区総合研修会、大野城

市の高齢者移動支援事業の視察研修など実りある事業を実施することが出来ました。子どもたちに郷土の歴史を伝え、ふるさとを誇りに思う心を育てるために、庄内小学校、乙房小学校、菓子野小学校の四・五年生に対する郷土学習の支援も行いました。

都城市が平成二十五年に地域活性化のために積み立てた地域振興基金を活用した地域活性化事業もスタートしました。平成二十六年度は検討会議で決定した事業(庄内地区をアピールするDVD等作成事業、史跡の整備保存事業、歴史文化読本作成事業)に取り組みました。

平成二十七年は昭和四十年四月一日に旧庄内町と都城市が合併して五十周年を迎えることから、昨年六月より西岳地区まちづくり協議会と共に記念事業の検討を重ねてきました。平成二十七年年度の事業になりますが、四月四日に都城市・庄内町合併五十周年記念事業として祝賀会を開催し、庄内・西岳両地区から四百名を超す参加者がありました。また全世帯に合併五十周年記念の小冊子を作成し配布しました。庄内町時代には庄内・西岳地区が、共にまちづくりに取り組んだ歴史を再認識し、これからも連携してお互いの地域の発展を目指す良い機会となりました。

(平成二十六年庄内地区まちづくり協議会役員は表一を参照。)

二. 主な事業内容

① 庄内川鯉のぼり駐車場案内看板設置

(平成二十六年四月六日)

庄内商工会青年部による庄内川堤防鯉のぼり掲揚は季節の風物詩となり、見物客の道路上駐車が見られることから、地域づくり部会では都城酒造様のご協力によりエムズガーデン駐車場に誘導する看板を設置しました。

② 庄内小学校五年生の遠足支援 (平成二十六年五月十四日)

庄内地区の史跡や石垣群を巡り、ふるさとのよさを見直すことなどを目的に遠足を実施しました。庄内地区まちづくり協議会では教育文化活動部会が協力し、史跡等の案内および説明を同部会所属の「庄内の昔を語る会」が行いました。

③ 関之尾滝ライトアップ (平成二十六年七月二十日)

地域づくり部会が担当しています。七月二十日から八月三十一日まで点灯しました。点灯時間は日没(十九時三十分ごろ)から二十一時までで、昼間と違って幻想的な関之尾の滝を楽しむことができ、観光客に喜ばれました。

④ 健康福祉部会主催の研修会 (平成二十六年七月六日)

近年子どものアレルギーによる事故等の報道が多くなっており、保護者として正しい知識を身につけるための研修会を実施しました。

講師に医療法人与州会柳田クリニック小児科医師の柳田かえで先生をお迎えし、「食物アレルギーについて」の演題でお話しして頂きました。

⑤ 庄内地区総合研修会 (平成二十六年八月四日)

講師に池田宜永たかひさ都城市長をお呼びし「『笑顔あふれるまち・都城』をめざして」の演題で講演を行いました。雨模様のあいくの天候でしたが約九十名の参加がありました。

⑥ 安全パトロールステッカーを作成 (平成二十六年九月)

庄内地区まちづくり協議会は庄内地区青少年育成協議会と共同で「安全パトロール実施中」のステッカーを作成しました。車に貼って地区内を走行することで犯罪を未然に防ぐ効果が期待されます。

⑦ 庄内川堤防の草刈り

庄内川堤防の草刈りを行いました。環境整備部会を中心に各自治公民館長・副館長はじめ多くの方の参加があり、四十名で作業を行いました。前日までに上関之尾橋から鶴島橋まで機械

で草刈りを実施してありましたが、橋や水門の近辺など機械で刈れない部分を人力で刈りました。庄内橋、上平田橋、平田橋、引土橋に分かれ作業しすっかりきれいになりました。

⑧ 第二十九回庄内ふるさと祭り

バザー（十一月一日、庄内地区体育館）

展示会（十一月一日、二日、庄内小体育館）

イベント（十一月二日、庄内地区体育館）

午前・午後とも多くの来場者がありました。午後実施

した公民館対抗歌合戦の審査結果は以下の通りです。

優勝 東区自治公民館

準優勝 千草自治公民館

三位 川崎自治公民館

出店（十一月二日、庄内小体育館前）

⑨ 庄内中学校一年生地域巡見学習

（平成二十六年十一月二十八日）

当日は、「庄内の昔を語る会」会員の方三名に講師をお願いし、バス三台に分乗し、地区内の史跡を回りました。今回で四年目の開催となりますが、生徒たちは事前に学習をしていたようで、実際に史跡を見て興味深い様子でした。自分たちの住む庄内には、たくさんの歴史と文化があることに気づき、郷土に

誇りを持つてくれることを期待します。

⑩ 第二十回庄内川一周YOU遊駅伝大会

（平成二十六年十二月七日）

第二十回となる庄内川一周YOU遊駅伝大会が開催され、全自治公民館十チームとオープン参加の部に三チームが出場し、熱戦を繰り上げました。沿道からのご声援ありがとうございました。結果は以下の通りです。

一位 乙房自治公民館 一時間〇四分四九秒

二位 東区自治公民館 一時間〇六分〇〇秒

三位 川崎自治公民館 一時間〇六分〇八秒

⑪ 菓子野小学校五年生校外学習（平成二十六年十二月十八日）

まず三原叢五先生のお墓を訪問、次に庄内地区公民館に移動。前田用水路の建設に尽力した坂元源兵衛の紙芝居「坂元源兵衛物語」と、関之尾滝に伝わる「お雪さん物語」を関之尾むかえびとの会の花原会長と奥田さんが披露。山田町の都城市クリーンセンターと木之川内ダムも見学しました。

⑫ 大野城市南地区視察研修（平成二十七年二月二十七日）

視察の目的は下記の通りです。

ア．南地区コミュニティ運営委員会の設立経緯・組織・活動などについて研修し、今後の庄内地区のまちづくりの参

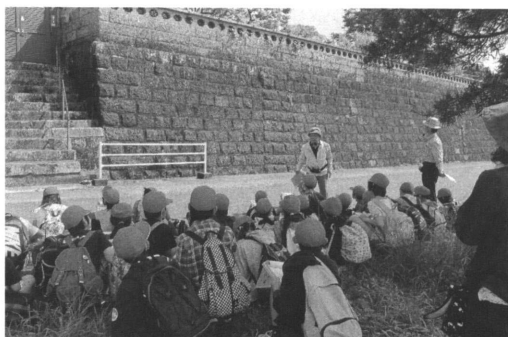
考とする。

イ、「高齢者移動支援事業」（高齢者移動支援バスふれあい号の運行）の導入経緯及び運営体制について研修し今後の庄内地区での事業展開の参考とする。

表一

（平成二十六年庄内地区まちづくり協議会役員）

役職	氏名
会長	釘村 美千也
副会長	馬籠 英男
〃	福村 修
〃	今ヶ倉 毅
自治公民館活動部会長	徳留 次男
地域づくり部会長	森山 浩平
教育文化活動部会長	舟津 隆二
健康福祉部会長	大河原 弘子
環境整備部会長	徳丸 義彦
事務局長	朝倉 脩二
監事	今村 壮二
〃	鶴島 節男



庄内小学校5年生遠足



庄内ふるさと祭り



庄内中学校地域巡見学習



庄内川一周YOU遊駅伝大会

平田かくれ念仏洞に写真付説明看板を設置しました

都城市地域活性化事業（庄内地区内史跡の保存整備事業）で平田かくれ念仏洞跡に写真付説明看板を設置しました。同念仏洞は平成二年の台風により崩落し、その後平成三年に土砂を取り除き調査した後は、再び埋め戻され内部の様子は見ることはできなくなっていました。そこで、調査の時写した写真を都城市文化財課よりお借りし、看板にして設置しました。

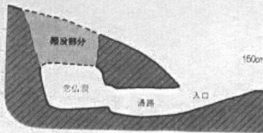
説明文

この念仏洞は一九七四（昭和四十九）年に都城市の指定文化財となった。このような念仏洞のうち、大半のものがすでに崩壊・埋没してしまっており、本洞穴は当時の状況を今に伝える数少ない貴重な例であった。しかし一九九〇（平成二）年の台風によって洞穴天井部分が陥没したため、崩落した土砂を取り除いて形状を実測した後、入口部分を除いて埋め戻した。

— 都城市指定文化財 —

平田かくれ念仏洞

この念仏洞は1974(昭和49)年に都城市の指定文化財となった。このような念仏洞のうち、大半のものがすでに崩壊・埋没してしまっており、本洞穴は当時の状況を今に伝える数少ない貴重な例であった。しかし、1990(平成2)年の台風によって洞穴天井部分が陥没したため、崩落した土砂を取り除いて形状を実測した後、入口部分を除いて埋め戻した。



1991(平成3)年 崩落した土砂を取り除いた状態【内部写真】

平成27年3月 庄内地区まちづくり協議会設置

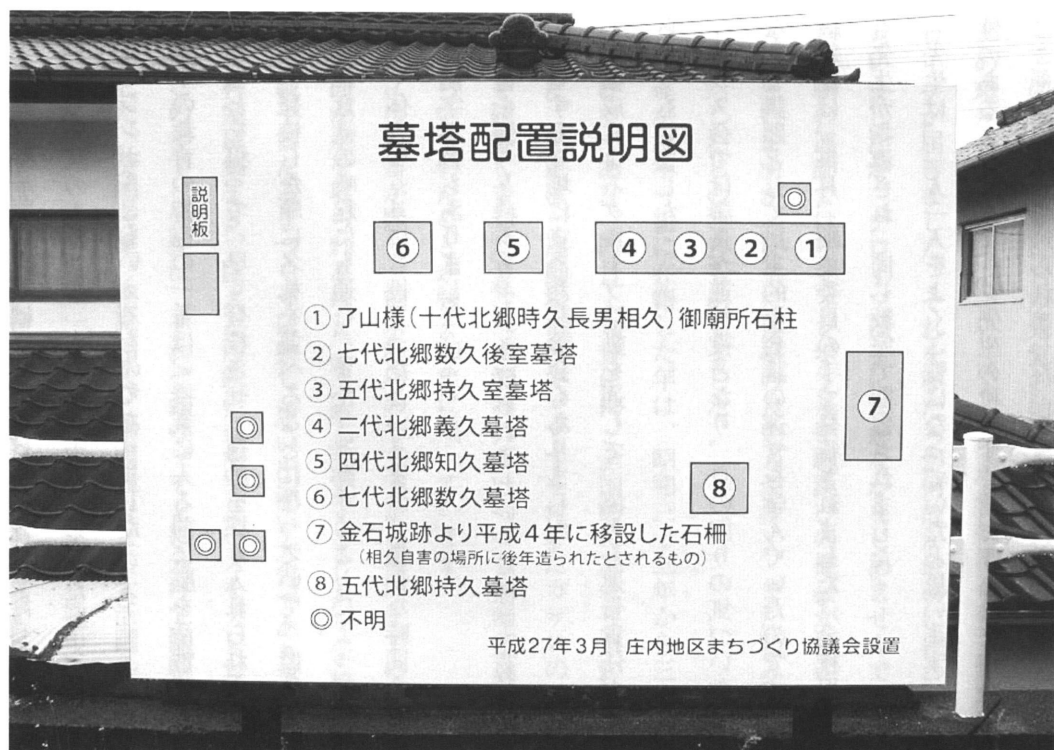
釣璜院跡に墓塔の説明看板を設置しました

同じく都城市地域活性化事業（庄内地区内史跡の保存整備事業）で釣璜院跡に墓塔の説明看板を設置しました。

釣璜院跡には都城島津家の二代北郷義久、四代北郷知久、五代北郷持久、七代北郷数久の墓塔など多くの古石塔等があります。最近では都城島津邸が開館したこともあり、都城島津家の歴史に興味を持ち同所を訪れる人も増えてきました。墓塔の位置関係がわかりにくいため説明看板を設置しました。

都城島津家初代領主の墓所である山久院跡と釣璜院跡は都城島津家により管理されていましたが、平成二十六年四月より庄内地区まちづくり協議会が管理することになり、釣璜院跡の墓石の補強や手すりの塗り替え工事を施工、年数回の清掃もしております。

山久院跡も同じく墓石の補強や砂利敷布などを行い、東第一高齢者クラブ（鎌田康正会長）にお願いして清掃をしていただいております。



墓塔配置説明図

説明板



- ① 了山様（十代北郷時久長男相久）御廟所石柱
- ② 七代北郷数久後室墓塔
- ③ 五代北郷持久室墓塔
- ④ 二代北郷義久墓塔
- ⑤ 四代北郷知久墓塔
- ⑥ 七代北郷数久墓塔
- ⑦ 金石城跡より平成4年に移設した石柵
（相久自害の場所に後年造られたとされるもの）
- ⑧ 五代北郷持久墓塔
- ◎ 不明

平成27年3月 庄内地区まちづくり協議会設置

追憶・随想

川野光先生の思い出

早鈴町 七牟礼 純 一

川野光先生は、都城市の出身で、昭和二十八年三月宮崎大学学芸学部卒業後、紙屋小学校を経て昭和三十年四月に庄内小学校の教師として赴任されました。

今考えると、教育への情熱とチャレンジ精神にあふれ、いつも慈愛に満ち、傑出した才能を有し、戦後日本の民主主義と教育に颯爽と登場された、輝く教師であったのではないかと思えます。当時の誰もが一目置き、その教育観と指導力に目を見張ったのではないのでしょうか。

五年生を修了するとき、担任のT先生から、「S君と君は川野先生だよ」と告げられ、緊張したのを覚えています。何か特別な先生というイメージは持っていたのです。

先生の六年一組の教室は、廊下がピカピカでした。それは先生の下で先輩の人たちが一生懸命雑巾がけをした歴史であり、一組のシンボルともいえるものでありました。

先生の教育の特色の一番は、授業に入る前に脳を活性化しておくことを狙って、早く登校させ、運動を採り入れられたことです。登校した順に名札を並べることになっていて、競争心も生まれ意欲の喚起にも通じ、また、運動することによって仲間意識や体力づくりにも役立ったといえます。僅かな時間を利用した漢字学習もありました。

方言を使うと持ちカードを取られるといった標準語教育や、相対立する立場に立った討論会もありました。

班編成によるグループ活動を通して、協力と連帯責任が求められていました。

クラス会では議長が進行役となり、身の回りの気づいたことなどを議題として民主的な会議の運営を学んでいたのです。学級新聞は、毎月、編集委員の手で発行されました。全校児童会も先生が指導され、同じ教室で開催されました。

先生は、一人一人をよくご覧になっていたと思います。多動性のあるクラスメートを先生の机のすぐ前に座らせて、いつもにこやかに接しておられました。クラス内の人間関係が懸念さ

れるときや班が機能していないと感じられたときは、すばやく指導されました。席の移動も必要に応じてあり、時には愛のムチもあり、セルロイドの三十七センチ物差しで掌に戒めを受けることもありました。

先生は、恰幅の良い方で、威厳があり、堂々としておられ、問えば何でも答えてもらえるような慈愛に満ちた優しさも感じられました。理科の専門らしく白衣の姿が印象的で、いつも革靴の音を響かせてゆったりと廊下を歩いておられました。

いつか、運動場で先生が何かを空中に何度も投げておられました。近づいてみると、L字型の木切れみたいなもので、ブーメランでした。「うまく空中に投げると、ブーメランは手元に帰ってくる。アフリカでは狩猟に使うんだ。」と教えてくださいました。私たちも何度か試してみましたが、容易ではありませんでした。新しいものを持ち込むことによる新鮮な驚きを先生は意図されていたのでしょうか。

理科の実験であったかどうかは忘れたのですが、サツマイモで飴を作り、それを昼食時に弁当箱の蓋に入れてもらって、いただいたこともありました。学校参観の日には、先生への期待の現れだったろうと思うのですが、たくさんの親達が詰めかけ、子供達と一緒に記念写真を撮りました。

この年は、日本は岩戸景気の始まりといわれ、経済的な豊かさの現れとでもいうのでしょうか、小学校に初めて野球のグローブが届きました。それを私たちが何故か最初に使わせてもらいましたが、グローブは手になかなかなじみませんでした。

早朝の運動では、ドッジボールや縄跳びの機会が多かったように思いますが、女子に体格の良い人が多く、また巧みで、男子はたじたじのときもありました。

私達が六年一組に在籍した年は、昭和三十三年から三十四年にかけてであり、四月十九日には、全国的に部分日食が見られました。児童は、運動場に出て、すずを付けたガラスの破片で太陽を観察しました。私は、木漏れ日がいくつもの三日月となって揺らいでいたことが強く印象に残っています。

冬には大雪が降り、徳永商店の十文字から校門までの坂道では何回か足を取られるほど、雪は厚みがありました。学校では、雪合戦や雪だるまづくりに興じ、思い出深い大雪でありました。

理科室に集まり、巨人と西鉄の日本シリーズをテレビで見ただけのもこの年で、先生は、それぞれのファンに分けて観戦させられました。長嶋茂雄、稲尾和久、中西太などの大活躍のシリーズでした。

それから半世紀以上が経ちましたが、卒業写真を見ると、ク

ラスメート一人ひとりの存在感が今もはっきりと感じられ、充実した最終学年だったと感謝の念に堪えません。

先生は昭和三十五年四月七ツ山小学校に転任になり、その後は宮崎大学付属小学校、宮崎教育事務所、宮崎県教育庁学校教育課、宮崎赤江養護学校（教頭）、本郷小学校、住吉小学校、池内小学校、宮崎小学校と歴任され、昭和六十三年三月に教職を退職になりました。

先生には教育界の要職を嘱望されながら、途中体調を崩され、思い任せられなかったのではないかと拝察するところがあります。しかしながら、先生の深い慈愛と薫陶を受けた子供たちは、誰もが学んだことを心に刻み、生涯の励みとして、頑張っていることと思います。大人になってからも先生からとっておきの写真入りの賀状を頂きながら親しく交流を続けた人も多くいたことでしょう。

先生は、平成十六年四月二十七日、七十四歳でお亡くなりになりました。

※追記…小学校で教えていただいた先生方は素晴らしく、忘れ得ぬ人ばかりですが、特に川野先生については書いておきたいと思って寄稿しました。本稿にさらに書き加えていただければ幸いに存じます。



熊襲、南洲神社、そして庄内川

昭和六十二年三月庄内中学校卒業

花原 憲一郎

(上川崎出身)

庄内を離れ、六年の海外生活を含み二十五年。時間の経過とともに庄内の思い出が昇華されつつあり、今東京で暮らす中で自分としての庄内人としてのアイデンティティは三つに集約されることに気がついた。それは、熊襲、南洲神社、そして庄内川。熊襲はもちろん、熊襲踊り。小さい頃から運動会などの行事で熊襲踊りには触れており、自分も高校生のように生活に溶け込んでいる。それは伝統芸能であり、当たり前のように生活に溶け込んでいた。正直なところ、「鉦の音はユニークで耳に残るな、でも熊襲踊りのバラ太鼓は重いな」という程度が当時の思い出である。しかし、改めてその踊りの由来を考えたとき、もう一つの思い出の軸である南洲神社と結びついた。

南洲神社は、社内に西郷隆盛が掲げられており西南戦争に出陣し戦死した庄内出身者が祀られている。小学校の帰り道、境

内で遊んだのでそれをよく覚えている。そう、庄内は、薩摩藩として現在の日本政府に歯向かっていたのだ。

一方、熊襲踊りは、その西南戦争の約一九〇〇年前の大和政権に抵抗していた熊襲のストーリーである。つまり、庄内は、西南戦争の戦死者を弔う南洲神社とヤマトタケルに成敗された熊襲踊りで、日本政府に過去二回抵抗した記憶を持っているのである。

私は六年の海外生活のうち、イギリス北部スコットランドのグラスゴーに約二年住んでいた。そのスコットランドも同じようにイングランドと長い間戦争をしていた地域であり、現在は「イギリス」となっているが、スコットランド人はスコットランド人としてのプライドに満ちている。語弊を恐れずに言えば、庄内人も同じような想いを持っているような気がする。熊襲踊りと南洲神社は、実はその庄内人としての証ではないかと思う。東京、海外と暮らす中、私の庄内人としての自我は、幼少から触れた熊襲踊り、境内でよく遊んだ南洲神社の二つから、刷り込まれたような気がする。

そして、庄内川。言わずもがな、霧島を水源とし庄内地区の上流で支流を交え、関之尾の滝を経て、その後緩やかに庄内地域に流れを横たえる。小中高校の通学は庄内川と平行に移動し

たり、渡ったり。田植え、台風、稲刈り、藁ぐろと周囲の田園風景が変わる中、ゆったりとしたその流れを見ており、私の庄内の思い出の背景には必ず庄内川が映っている。

室生犀星は「故郷は遠くにありて思ふもの」と謳うが、長い時間を経るとその記憶は抽象化していく。私の庄内の思い出は、熊襲、南洲神社、庄内川が潜在的に潜んでおり、またそれは正しい。庄内出身者としてその情緒も含めた誇るべき豊かな自然について、今後も子供たち次世代に語り継いでいきたい。



事務局便り

平成二十六年年度 事業報告

庄内の昔を語る会

一、季刊誌「庄内」第二十号の発行

発行日…平成二十七年二月十日

発行者…庄内地区まちづくり協議会、庄内の昔を語る会

発行部数…三百冊

印刷所…(株)文昌堂

内容…発行にあたって

特別寄稿

歴史研究

資・史料

庄内町情報

追憶・随想

事務局だより

編集後記

販 売…一冊千円

十八名

一〇五頁

庄内地区まちづくり協議会一括購入

配布先

冊数

市役所関係各課

五

地区小・中学校

八

報道各社（市政クラブ）

十二

願心寺（題字）

一

執筆者・関係者

二十四

まちづくり協議会

四十七

宮崎県立図書館

三

合 計

一〇〇

二、庄内歴史講座（庄内地区ライフセミナー）

第一回（総会後講演）

日時…平成二十六年五月十日（土）

十四時三十分～十五時四十五分

場所…庄内地区公民館

内容…講演「明治期の庄内」

講師…武田浩明氏（都城市文化財課）

参加者…二十九名

第二回（史跡探訪）

日時…平成二十六年六月十日（火）

八時出発～十七時帰着

探訪先…大分県たかひら展望所、西郷隆盛宿陣跡資料

館、延岡内藤記念館

参加者…二十四名

第三回

日時…平成二十六年七月十九日（土）

十四時～十六時

場所…庄内地区公民館

内容…講演「近現代の庄内」

講師…山下謙二郎氏

参加者…二十一名

第四回（都城島津伝承館主催講演会）

日時…平成二十六年九月二十日（土）

庄内地区公民館十三時集合、十六時半帰着

場所…都城市コミュニティセンター

内容…講演「倭寇と都城唐人町」

講師…宮崎大学 関周一准教授

参加者…十二名

第五回（都城島津伝承館主催シンポジウム）

日時…平成二十六年十一月三日（月）

庄内地区公民館十三時集合、十七時半帰着

場所…都城市総合文化ホール

内容…講演「島津発祥」と都城

講師…愛知学院大学 福島金治教授

パネルディスカッション…

永瀬正敏氏、植野かおり氏、山本博文氏、

福島金治教授

参加者…十五名

第六回（都城島津伝承館特別展）

日時…平成二十六年十二月二十三日（日）

庄内地区公民館十三時集合、十五時帰着

場所…都城島津邸

内容…「みやこんじょ力の発信

～紫舟と都城島津家史料の出会い～」

参加者…十二名

第七回

日時…平成二十七年一月二十四日（土）

十四時～十六時

場所…庄内地区公民館

内容…講演「戦時下の学校教育

〔庄内小学校の学校日誌より〕

講師…山下謙二郎氏

参加者…十六名

第八回（史跡探訪）

日時…平成二十七年三月二十三日（月）

八時出発～十八時三十分帰着

探訪先…熊本県通潤橋、八村スギ、鶴富屋敷、椎葉民

俗芸能博物館、椎葉巖島神社

参加者…二十二名

反省会

日時…平成二十七年一月二十四日（土）

十八時～二十時

場所…琴吹寿司

内容…平成二十六年度の反省と来年度に向けて意見

交換

参加者…十四名

三、会議等

平成二十六年度通常総会

日時…平成二十六年五月十日（土）

十四時～十六時

場所…庄内地区公民館

内容…議事①平成二十五年度事業報告

②平成二十五年度決算報告及び監査報告

③平成二十六年度事業計画（案）

④平成二十六年度収支予算（案）

講演…「明治期の庄内」

講師…武田浩明氏（都城市文化財課）

出席者…二十九名

理事会

①平成二十六年五月十日

②平成二十六年九月十七日

③平成二十七年二月二十七日

四、その他

①庄内小学校五年生遠足（史跡めぐり）に協力

日時…平成二十六年五月十四日（火）

八時三十分～十二時

主催…庄内小学校

共催…庄内地区まちづくり協議会教育文化活動部会

内容…庄内小学校出発↓お軍神↓釣こう院跡↓持永

邸石垣↓願心寺↓菅原神社↓諏訪神社↓豊幡
神社↓山久院跡↓地頭仮屋跡↓安永城跡

各史跡で説明

ガイド役…山下謙二郎氏、七牟礼純一氏

②庄内小学校教職員校区内巡見

日時…平成二十六年七月三十日(日)

八時三十分～十二時

主 催…庄内地区まちづくり協議会教育文化活動部会

内 容…庄内小学校出発↓お軍神↓関之尾滝(ガイ

ド…関之尾むかえびとの会)↓平田かくれ

念仏洞跡↓願心寺山門、本堂、書院、周りの

石垣↓諏訪神社↓豊幡神社・山久院跡↓安永

城跡↓庄内小

ガイド役…山下謙二郎氏、七牟礼純一氏

③庄内中学校地域巡見学習

日時…平成二十六年十一月二十八日(金)

十三時三十分～十六時

主 催…庄内中学校、庄内地区まちづくり協議会

内 容…庄内中学校一年生(六十四名)を対象とした

地域巡見学習を支援。マイクロバス三台に分

乗し庄内地区の史跡を説明

平田かくれ念仏洞跡↓乙房神社の田の神様↓
宮島の石碑(中央権現)↓諏訪神社↓山久院
跡↓三島通庸遺徳の碑↓安永城跡↓南洲神社

↓願心寺↓庄内中を巡った。

ガイド役…七牟礼純一氏、花原恵子、佐々原幸子氏、

山下謙二郎氏

④菓子野小学校五年生校外学習

日時…平成二十六年十二月十八日(水)

八時三十分～十一時三十分

主 催…菓子野小学校、庄内地区まちづくり協議会

内 容…菓子野小学校五年生(二十名)を対象に三原

叢五先生のことや前田用水路などについて学

ぶ校外学習を支援。マイクロバスで三原叢五

墓地、前田用水路トンネル出口などを見て、

庄内地区公民館に移動。関之尾むかえびとの

会の紙芝居「坂元源兵衛物語」の鑑賞と、山

下謙二郎氏による「三原叢五先生のこと」の

講話を聞いた。前田用水路トンネル出口見学

のち山田のクリーンセンター、木之川内ダ

ムを見学

⑤乙房小学校四年生校外学習

日時…平成二十七年一月二十九日(木)

八時三十分～十一時三十分

主催…乙房小学校、庄内地区まちづくり協議会

内容…乙房小学校四年生(二十五名)を対象に前田

用水路、木之川内ダムなどについて学ぶ校外

学習を支援。マイクロバスで庄内地区公民館

に移動。関之尾むかえびとの会の紙芝居「坂

元源兵衛物語」と「お雪さん物語」の鑑賞と、

山下謙二郎氏による「坂元源兵衛と前田用水

路」の講話を聞いた。前田用水路トンネル出

口見学ののち山田のクリーンセンター、木之

川内ダムを見学。

⑥庄内小学校四年生郷土学習

日時…平成二十七年二月二十日(金)

八時三十分～十一時三十分

主催…庄内小学校、庄内地区まちづくり協議会

内容…庄内小学校四年生(二十七名)を対象に前田

用水路などについて学ぶ郷土学習の支援を

行った。関之尾むかえびとの会の紙芝居「坂

元源兵衛物語」と「お雪さん物語」の鑑賞と、

坂元勲氏による「前田用水路と坂元源兵衛、

前田正名のこと」の講話を行った。

⑦庄内ふるさと祭り

日時…平成二十六年十一月一日(土)～二日(日)

主催…庄内地区まちづくり協議会

内容…庄内小学校体育館に庄内地区の遺跡や神社・

人物などの写真を展示

「庄内の昔を語る会」への入会勧誘

⑧庄内地区まちづくり協議会

山下会長が教育文化活動部に所属

⑨庄内地区まちづくり協議会地域活性化事業

(史跡整備事業)

釣璜院跡整備：手すり塗り替え、石柱固定、墓塔説明

板設置などを支援

⑩庄内地区まちづくり協議会地域活性化事業

(歴史読本作成事業)

編集会議開催(坂元徳郎顧問、坂元勲顧問、理事全員)

史跡等写真撮影(福村修氏、朝倉)

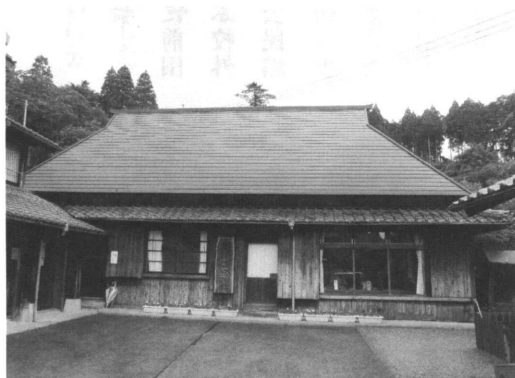
史跡探訪 平成26年6月10日(火)
大分県佐伯市蒲江～延岡市北川～内藤記念館



大分県佐伯市蒲江の「たかひら展望公園」より入津湾を望む



蒲江おさかな村で昼食



延岡市北川の西郷隆盛宿陣跡資料館を見学



最後の軍議を再現したもの



内藤記念館で学芸員の説明を受ける



内藤記念館の東側に残る、カラム煉瓦塀や内藤家正門(本宅は焼失)

史跡探訪 平成27年3月23日（月）
 熊本県山都町通潤橋～八村スギ～鶴富屋敷～椎葉民俗芸能博物館～椎葉巖島神社



熊本県山都町通潤橋 残念ながら、放水は夏場だけ



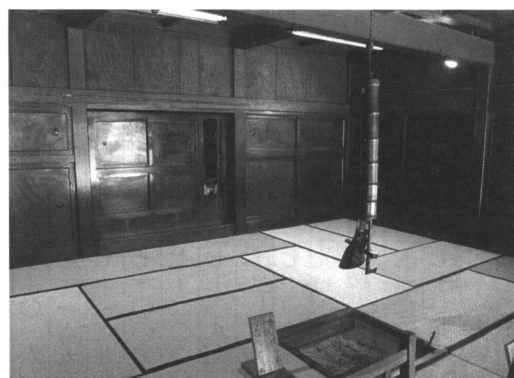
国指定天然記念物八村杉樹齢約800年、那須大八郎手植えの伝説あり



鶴富屋敷で昼食



国指定重要文化財那須家住宅（鶴富屋敷）



「でいの間」客間として用いられ冠婚葬祭などの行事も行った



椎葉村観光ガイドの説明を受ける

平成二十七年 度 会 員 名 簿

庄内の昔を語る会

氏名	住所	☎
坂元 徳郎	庄内町一二五七一	三七一〇三五〇
江口 保	庄内町一三九〇八一三	三七一〇二八一
鎌田 康正	庄内町一二五五一	三七一〇二六五
海老原 宗平	庄内町一二三四五―三	三七一〇三二九
佐藤 幸三郎	庄内町一二五四八	三七一二一五二
坂元 勲	庄内町一三九三八	三七一〇七七五
園田 満彦	庄内町	
池田 平八郎	庄内町八〇四五	三七一〇六一一
持永 節	庄内町一二五三八―一	三七一三六八一
松元 郁子	庄内町一二五七八	三七一一一七一
今村 トミ	庄内町一二五四〇―八	三七一二一四一
溝下 和子	庄内町一二五三四―一	三七一二一三九
西嶋 正文	庄内町一二七〇八一―一	三七一二七七五
猪俣 剛	庄内町一二七〇八一	三七一一七七一
朝倉 脩二	庄内町一二六九四	三七一〇〇七八
田代 加代子	庄内町七四三二	三七一二〇五六
池田 良子	庄内町七九九五―一	三七一〇三一四
山下 謙二郎	庄内町一二四六九―二	三七一〇八三一
萩原 忠子	庄内町一二六八二	三七一〇一二二
城村 勇	庄内町一二三六四―四	三七一〇一二八
年神 シキ	菓子野町一一七一〇	三七一〇三〇一
大池 烈子	庄内町一二三四六	三七一二一八三

江口 高見	庄内町一二三四〇―口	三七一〇一六一
永山 豊子	庄内町一二三四九	三七一一六五五
佐藤 とし	庄内町八九八六一―一	三七一一六九六
帖佐 ミヤ	庄内町九〇一九―イ	三七一〇〇二一
花原 恵子	関之尾町六三二四―二	三七一二〇〇〇
鶴島 節男	菓子野町一一六二―一	三七一〇八九三
馬籠 英男	乙房町一七八二	三七一二五六五
武田 浩明	乙房町三七七―一	三七一一二三八
山下 真一	鷹尾一丁目二一―一六	二六一三六四五
井上 ミツル	庄内町一二三四三―三	三七一〇四二三
満木 敏公	庄内町一二四九三	三七一〇三一八
山下 紘一	庄内町一二四六九	三七一九一七
山下 和代	庄内町一二四六九	三七一九一七
福村 修	関之尾町五四二四	三七一三〇四七
池田 昭子	庄内町八〇四五	三七一〇六一一
七牟礼 純一	早鈴町二〇―一九	二五一八六七
門松 房子	庄内町一二七四六一―一	三七一二〇六七
釘村 美千也	庄内町七八七四―二	三七一〇六六六
大川原 紀美生	庄内町一二五二四	三七一二二〇〇
鶴島 兼貞	庄内町八六七八―二	三七一〇一四七
宇野 勝利	庄内町一二六五九	三七一二二二八
宇野 秀子	庄内町一二六五九	三七一二二二八
田中 ミヤ	庄内町八六八八―二	三七一〇二一五
山元 芳子	庄内町一二五〇―一	三七一〇六七〇
財部 千鶴子	庄内町一三八七〇	三七一〇六四七
宮下 俊彦	久保原町四―五〇	二二一六九四一
佐々原 幸子	三股町稗田六二―三	五二一八二八八
久玉 照雄	庄内町一二五八八	三七一二七一〇

編集後記

年度末になり、『庄内』第二十一号をようやく発刊することができました。今号は原稿がなかなか揃わず、八十頁余の薄いものになってしまいました。

種田山頭火の日記『行乞記』には、昭和五年九月に庄内を行乞していること、自動車乗場の押揚ポンプの水がおいしかったことなどが記され、いくつかの句も詠んでいます。

町区の梶原さんの歴史研究では山頭火が立ち寄った自動車乗場、押揚ポンプの場所の特定がされています。また、山頭火が出会った『小さい娘の児』もいろいろな方に聞き取り調査し、故室谷英子さん（旧姓汾陽）であることが判明したと書かれています。今後山頭火の句碑を庄内に建立する計画を進めておられ、楽しみです。

坂元徳郎さんの予科練での想像を超える軍隊生活と、町区の矢野さんの南京での貴重な軍隊体験記を読んで、改めて平和の大切さを教えられました。

庄内町情報では平成二十七年四月四日に行った都城市・荘内町合併五十周年記念祝賀会で配布したパンフレットの内容を掲載しました。

また、今年度も各小学校の校長に学校だよりを寄稿していただきました。

庄内地区まちづくり協議会では、庄内地区の小中学生に歴史を学んでもらう支援をしています。庄内中学校一年生の地域巡見や、庄内小学校五年生の史跡巡り遠足の感想文が寄せられましたので掲載しました。児童・生徒たちの素直な驚きや、郷土を誇りに思う心が伝わって来て楽しく読めます。

※お知らせ

平成二十八年度は庄内地区まちづくり協議会の地域活性化事業（歴史文化読本作成事業）に協力します。庄内中学校一年生を対象にした地域巡見学習を始めて六年目になりますが、地域の歴史をまとめた読本を作成し、中学一年生に配布する計画です。今年度は仕上げの年になりますので、『庄内』第二十二号の発行を来年度に延期したいと考えております。どうぞご理解をお願い申し上げます。原稿をすでに書いておられる方は、預かりますのでご連絡ください。

平成二十八年三月吉日

編集委員一同

庄内第二十一号

平成二十八年三月三十一日 印刷
平成二十八年三月三十一日 刊行

刊行・編集

庄内地区まちづくり協議会
庄内の昔を語る会
宮崎県都城市庄内地区公民館
電話（〇九八六）三七―〇八八八番

印刷

株式会社 文昌堂
都城市都北町七一六六番地
電話（〇九八六）三六一六六〇〇番

